

52
431

訂
正

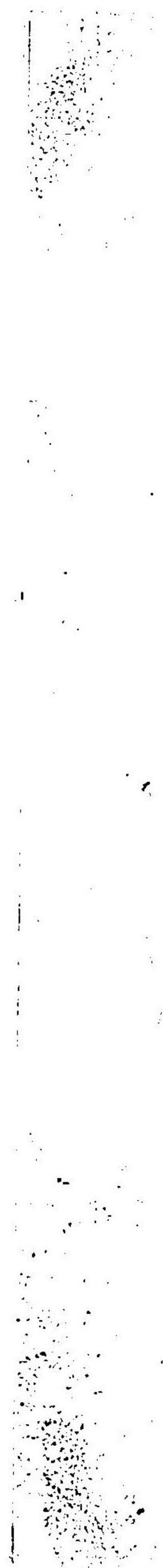
金

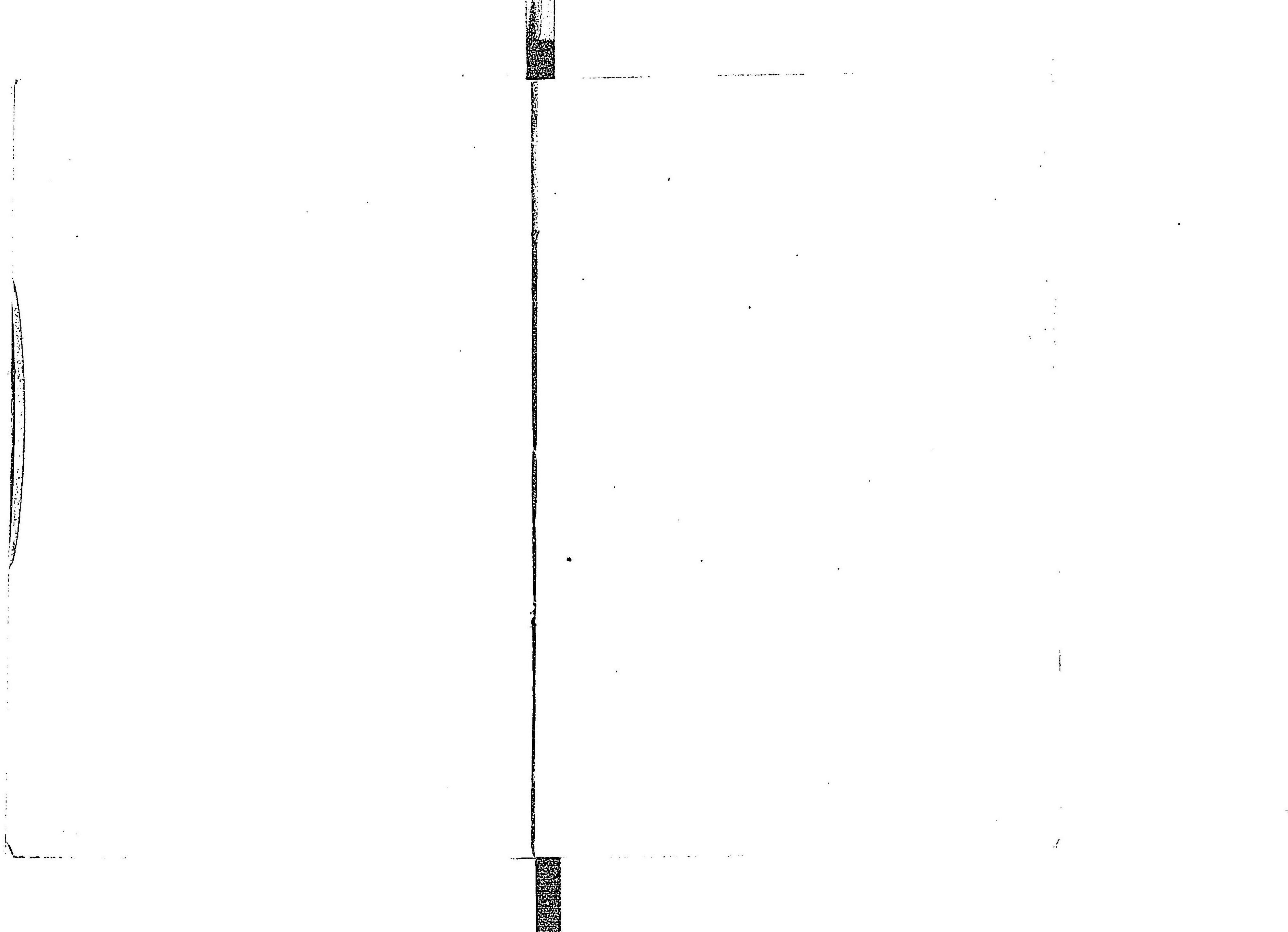
言

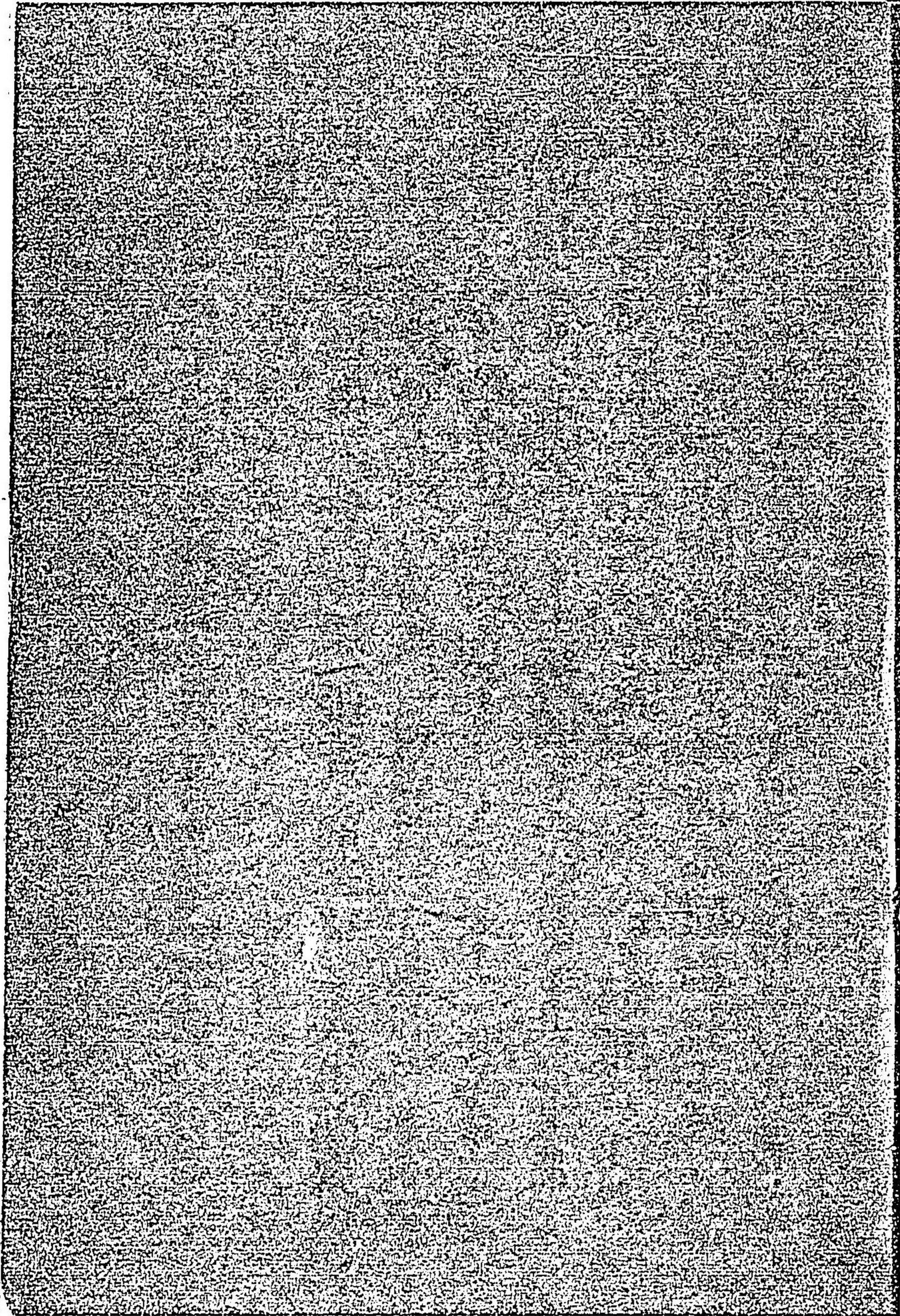
集

經
海
編
纂

福
音
社
藏
版







金言集序

友人一稿を携に來り余は序を命じ、余問ふ何の書ぞ、

友人曰此ハ嘗て宮川經輝兄が西京同志社よりありし

節升講神學生より授せられたるもの、筆記よしして、

信仰上より於て歐米の學士教師等の意見を其部其部よ

聚めたるものなり先づ見よやとして披て之を余は示

す余之を視るも或は祈禱、一致、基督、安息日などの事

或は信仰自由、信義勇氣、迫害、希望など人生必要の

問題ハハックス、ハミルトン、ニユト

ン。ハックストンをかど孰れも天下よ其名を轟かしたる

改革者、學者、政治家の妙論名説を臚列しありたり、閱
 讀する暫時膝を打て曰あ、此れ今日必要有益の書、
 獨り信者傳道者の爲めのみならず我教を輕視する未
 信徒の迷を解くよ、屈強の一物、早く上梓の期を待
 つのみ但序文の如き、別よ人のあるあり愚言と金言
 よ叙する、我が恥るところ請ふ之を辭せんと友人肯
 か迄卒よ彼我の問答を書して以て序文よ代ふ

明治十八年七月上浣

容膝堂松村介石識

例言

福音社主人今村謙吉君本書を第三版に附せんと欲し頻りに増補訂正
 せんことを懇請せらるゝにより友人の雜錄子の隨感録又の記憶中よ
 り百三十餘件を加ふるを得たり

成るべく發言者の姓名を詳記し出所を明にせんことを勤むと雖も予
 の記憶に洩れたるものありて今考索する能はず然れ共金言の金言と
 して眞價を有するを以て記載し置きぬ

明治廿七年十一月下旬

編者 識

れバ其色を云はず又之に觸れしことなければ其大さを示さず神の目にて見る能はず耳よて聞く能はず手にて觸るゝ能はず之よ似たるものよよく聞くことを得べければ心靈の最高潔最迅速最舊の分子によりて知るを得べし

ハリス曰く信者の自己の實驗によりて神を知ることを得人の生涯中最も價値あることの其道徳心靈の發達上に神の現在と勢力を實驗すること也

又曰く人神を知らざれば何をも識る能はず又神の存在の理性的知識よ必須缺くべからざるものたり

ヂュスチン曰く不生出の神が何れよりか降り又何れへか昇りしと思ふ勿れ蓋し萬物の大主宰たる天父の何處よも來らず歩せず眠らず起さず常に己の場所よ住し眼又の耳によらず其云ふべからざる力を以てよく見聞し玉ふが故に吾人の潛伏せんと欲するも能はず又宇宙の大も之を容るゝ能のざるを以て歩動するものにあらず

テヨピロ神の貌を知らんと欲するものに告げて曰く我友よ聽け神の貌の言語の以て説明し得べきよあらず又肉眼を以て見る能はず蓋し其榮の知るべからず其大の測るべからず其高の考ふべからず其力の比較すべからず其智の準すべからず其善の模倣すべからず其惠の解説の外なり

フライデレル曰く神の自存獨始宇宙的勢力にして諸勢力を包有支配すべき最動的勢力也

ヘゲル曰く三一の神の事の字義の如く解すべからず乃ち真正ある思想の形容的説明にして神の純然たる一個にあらず了解力によりて思考し得べき異同なき同一よあらず又猶太教の全能力にあらず其働をなしつゝある無限の愛也

ライマンアボット曰く東洋人の神を見んと欲し西洋人の神の意を爲

さんと欲す

テオピロ曰く人もし予に向つて我よ汝の神を見せよと云ひ予の其人に向つて汝もし己を予に見せなば予も亦我神を汝よ示さんと云ふんとす

エピクテトス(希臘の倫理學者)曰く人もし特に神より出でし者あるを信せば野卑なる思想の決して其心頭よ浮ばざるべし

フキヒテ曰く神果して有りや無しや疑ひしと言ふの誤れり道德を以て此世を主宰する者ありとの事の毫も疑ふ所なきのみならず世界中にて是最も確實あるものと云ふべし否な一切の確實なるもの之を以て根本とすと謂ひざるべからず

無神論の個人的にして全く宗教の觀念なき人間種族あるを見ず世に無神論者と稱する者の甚だ稀也ポーヅルなる者其母の死に遭ひ悲嘆の涙にくれ予の實に基督信者のあぐさめを有せざるを悲むと云ひければダビデヒユーム(有名の不信者)答へてア、我友よ予の空想の學者若くの哲學界の人士を悦ばしめんとて吐露すれ共其他の事に付ての自餘の人々と相去ること遠きものよあらずと云へり○神の恰も慈母の如く人の誤を許し之は接吻し限りなく之れを容れ玉ふかり○無神論者の宇宙の全部を搜索し盡したる後にあらざれば神なしと云ふべからず然れ共有神論者の宇宙の一部分に神の跡を認めなば直ちよ神ありと云ふを得

基督

ザアンパウロリツチトル曰く基督の生涯の權威者の中にて最も聖く聖者の中にて最も權威を有し其割れし手よて地上の王國を震蕩し世紀の潮流を變じ今尙ほ各時代を支配せり

ゲテ一曰く予の福音書の眞實無妄なるを認む蓋し基督の人物より發射し來る高崇なる光耀の神にあらざれば決して地上に顯現するを得

ざる所謂神種は屬するものなり

ホルドル曰く基督の最も貴き最も完全なる意味に於て實際的となりし人類の摸形也

ルーツー曰くソクラチスよして聖人の死を遂げしとせば基督の神の如く生き神の如く死せりと云ひざるを得ず

基督の死の最高尙ある完全の道義と心靈が罪と肉は勝ちしことを示せり

ヘンリー曰く基督の一般の信者が信仰を以て相會する宮殿なり

イハンス曰く基督の朽腐すべき世の中は朽腐せざる花の如し

クラシオス曰く全福音書の基督に包藏せり基督の靈魂の光なり糧なり藥なり

ハトソン曰く基督の子輩に千万の慰藉を與へ我が負ふべき十字架を安し玉ふ也

ツエロ曰く基督を得るの最上の利益よして基督を知るの最も高尚なる學識あり

ブルツクス曰く英國に於て女王マリヤ新教徒を窘迫せし時に當り一人の善良なる婦人ありしがロンドンの監督ボンノル氏其前よ召喚して曰く汝新教を離れ國教よ從ふよ非れば汝の夫を奪ふべしと婦人に答て曰く予の夫の基督ありと然らば汝の兒を取べし曰く基督の予の爲に十人の子供より緊要なり我汝の慰を奪取べしと曰く基督の我保惠師されば汝決して之を奪取べからず實に基督の我物なることを眞知する時の衷心常に安く如何なる艱難に遭遇するも更は恐るゝ所なしルナン曰く神の子の獨立獨歩也暫く世は現れ温良幽邃なる感化を及ぼし壯年にして死す是神の生涯也

チャニング曰く基督の歴史の全く眞實無妄の証據を有するもの也古往今來此の如き單純よして裝飾なき傳記を筆せしものなし加之あら

ず基督の品性よして捏造せられたりとせば是乃ち前代未聞の記事なるが故に非常の難事なりしならん予の實は基督以前に基督かく基督以後に基督ありしと云ふんと欲す彼の如き斬新にして高尚なる目的を有し社會の進歩よよりて發達したるよりも數等高貴なる主義を有せし人物を造り出すの非凡の智力を要する勿論也……新約全書よして單は漁夫の手よ成りしとせば予のニュートンのプリンシピアの農夫の手に成りしと云ふを得べし

カイク曰くイエスの人物の神の多くの作中惟一の作あるのみならず別作即ち神の特殊の啓示也……基督教の凡の受造物中の冠首にしてイエスの神の撰み玉ひし神像也人類の歴史に於て世界を化成せしものと謂ふべき也

デモン、スチユアルト、ミル曰く偏理的批評よよりて何を取り去らるるも空前絶後の偉人基督の依然たり……彼の十二使徒若くは其門弟子の中誰かイエスの語也として示めざるは金言を發明し福音書よ描出せられたる生涯と品性を想像し得るものあらんや決してガリ、ヤ海の漁夫又のパウロの能する所にあらず云々

パスカル曰く基督を知らざる者の世界の秩序よ付ても又己自らの事をも知らず蓋し吾人の基督によりて神を知るのみならず己をも知るなり……我の善も徳も生も光も望も皆基督にあり實に基督よよらざれば世の暗黒と苦難と失望よ充たされ神の性質も人の性質も漠々として窺ふべからざるに至らん

デモンフォイスク(スペンサーの高弟)曰く此人間社會の進化したる頂上のイエス基督の精神と理想の普く行るゝ時ならん

基督の荒野の大盤石なり予輩をして其蔭に休憩せしめんとて躬自ら炎熱を受け玉へり○基督よ依らざる智慧の罰せらる可き痴鈍なり基督に依らざる義の罪なり罰なり基督に依らざる贖の束縛なり禍なり

○基督が予輩の爲め何を成し給ふを知らんと欲せば我心中に彼既に何をなし玉ひしやを知るも若のあし○基督よよらずして教會に入るを得るも基督に由らざれば決して天國に入るを得ず基督の万國に充滿し玉ひ即ち福音をして畑とせり基督の其内は隠れたる眞珠なり即ち福音をして指環とせり基督の其内はある金剛石なり然り而して福音中基督なしとせば其善美勢力威光那邊はあるや○ウエスリー其晩年に及びドンカストルに至るや無道なる惡漢説教を聞かんと欲して來りしが此輩の天主教徒と自稱するも其實信者に非ざるなり氏の古の聖徒に倣ひ十分の精神を以て能辨滔々流るゝが如く己の説を説明せんと欲し天主教婦人其胸部に掛けたる十字架を失ひたること及び此婦人の誤て至寶の十字架を失ひ疾呼して曰妾已に十字架を失ひたり今乃ち基督の外信す可きものあしと云へり彼十字架を失ひたりと雖も尙は眞の基督を有するを得たり是婦人に取りては格別の

恩恵にてありたり是は於てやウエスリーの全力を奮ふて基督の靈魂の救主にして之を信する者の何人たりとも救を得るや必せりと述たり時に聽衆中一屠牛者あり其聲耳朶に達するや即ち從來種々の偶像を拜したるとの奇あるを悟りしとぞ○救主の予輩の享有する處の慰藉の根元なるを以て特に衆庶を慰め玉ふ保惠師なり予輩基督を離るるときは我が靈魂上は於て聖靈の働如何あるべきぞ信仰も其基本を失ひ悔悟も希望も其爲す所を知らざるに至る可し若し天國は於て基督なしとせば天國も亦我仰慕する所は非ざるべし然れば基督の吾人は最上の慰藉を賜ふ保惠師なると敢て疑を容るべきはあらざるなり○今を距ると數十年前ユルンウチールの近岸に於て一破船ありしが一時の頗る困苦せしも主の恩恵は依り一人も生命を亡ふ者なかりき次の安息日に水夫等教會に至り神恩の辱を感謝せり此日司會の牧師説教將に終らんとするに際し罪人の危険あると及び救主の恩寵優渥

なるを語り其言曰く諸君試に看よ今方よ水中よ沈没せんとする者あり百方救助を得んと欲し愈動けば愈水中に沈み今や自力よて免る能はざるを知るべきの則ち万思胸に塞り唯死を待つの外なかるべし時よ一葉の浮板流れ来るあらば必ず之を抱持し將よ絶えんとする生命を救ふ可きなり嗚呼我兄弟よ是のこれ人の景狀を畫出したるものよて予輩の方よ溺んとする水夫にして基督の救の主なり此板汝を救ひ得べし然り罪人よ此板の必ず汝を救ふべし此時牧師の聖靈の感化を受け非常の精神を以て懇論したれども一人も悔改するものを見ざりき爾後凡そ十有餘年を経て突然牧師の許に來りて人あり病よ罹り甚だ危篤なり一度先生の面を見て瞑せんと欲す願くは先生急に來駕あれと云ふ牧師の急速病室に至り見れば元より病人の一見識もなき他人にてありたり且其生命の且夕よ迫を以て直よ其傍に跪き愛兄予を見んと欲すと聞き速よ來れり今兄永眠に就んとす願くは一言を以て兄の望を告げよと請ひたれば病人の此言を悟りたりと雖も答辭を發するの力なきを見て語を繼で曰く兄今基督を信するや否や手にて示されよと求めければ彼れ死力を盡して末期の一言を吐きたり曰く疇昔兄の教示したる彼の板子を救ふべしと○東印度よ教師あり將よ眠に就かんとする信婦を見て如何なる感情を有するやと問ければ福なり福なりと云へり而して其手を聖書の上よ置き曰くこゝに基督あり聖書を胸よ當て茲に基督あり次に天を指し彼處よ基督ありと○一紳士あり己の富貴よ誇り一日其知人を誘ひ來り東西を指示して曰く是の我領地なり次よ遙か向を指し兄彼の畑を見ずや是亦我所有地なり次よ又一方を指し兄彼の家を見ずや是亦我所有物なり時に其友人答て曰く彼の村に一人の貧婦あり彼の兄よりも一層高尚なることを云へり紳士愕然問て曰く彼何をか云ひしや曰く彼婦人の基督の我物なりと云ふを得るなりと○基督耶穌なる盤石の外に立者の河邊

の樹木に巢を構造する鳥の如し鳥の梢に歌ひ水の下に流るゝなり然り而して水の斷へず樹根の土壤を洗去るを以て不時に木の倒れて河中に落ち巢の水中に沈み鳥の住所を失ひ終に漂泊するに至るべし之に反し岩石の中は巢を構ゆるとき、の凜烈なる寒風に逢ふも害を蒙ることなく東風氷を解くに至れば再び其巢に歸り一生を終るまで其雛を爰に養育し得るあり

聖靈

スボルゾオン曰く聖靈なき教會の宜しく閉鎖すべし……聖靈なき牧師の宜しく説教を中止すべし……聖靈なき人々の宜しく家を出でざるべし聖靈を得ざれば萬事死す聖靈を求めざる教會に於て死と滅亡と來るや必せり聖靈其能力を現す迄絶叫すべし

ムーデー如何にせば己を空うするを得べしやとの問に答へて曰く是成し難きの事たり汝自ら充たす能はざるが如く自空うする能はず暗黒を脱せんとするの捷徑の光明を容るゝあり

バルニエー其同伴と巡回傳道の途にて樹下に休憩し一老人の間近く労働するを見談話を試みしよよく此教に通曉するを以て其故を問へば予に百七歳の老翁あり常々天父に服事すべきを教ゆ予の衷心一の聲あり教導啓發するを感ず予が父を教ゆるものも亦此聲をらん歎と云へり往いて老翁を訪へば彼の欣然として予輩を歓迎し其信仰の來歴を語り千七百八十年メシナ太地震の時予の七才の幼兒なりしが不思議にも其災害を免れ爾來深く天父を信じ以て今日あるを致せりと云ふ彼の牧師に接することもなく宗教上の教育として使徒信經十誡及び主禱文を知るのみ

ユングリゲーション新聞

攝理

ワシントン曰く攝理の聖手のかくの如くそれ顯著也之を信せざるもの不信者にも劣り此攝理に對して報恩の念を有せざるもの悪人

よも劣ると謂ふべき也

ウエリントン侯ワートル激戦の後三通の書翰を認めしが其一通の左の數語は過ぎざりし予の難を免れたり攝理の指の予の上にあるし

彼の博學篤信なるベルナルドギルピンに密告する者あり曰く女皇將さよ兄を縛せんとす請う速に去れと彼平然去るを肯せず終に縛せられ將さよロンドンに向ふんとするや常の如く何事も皆最良の結果を現すべしとの金言を唱せり彼途上蹉いて脛を破りければ從者戯て此も亦善きやと曰へば然りと答へ泰然たり脛愈へ着府するや女皇マリヤ崩殂し火刑に處せらるゝ代りに凱旋の歌を誦して歸來せしとぞ苦難の後よの攝理の笑顔あり

人事門

人

ライマンピーチヨル生兒を懐いて曰くチ、汝小き無限の靈よ

ヘンリーワードピーチヨル曰く予の奈何よ汚穢なる兒童と雖も之よ接吻するを得蓋し其中に永久不滅の心靈を認むれば也
クワルツ曰く人の人の學ぶべきいろは也先づ人を學ぶに非れば神を讀む能はず

人との希臘語にてのアンソロポスと云ひ上を見ると云ふ義也○一婦人ありボルチル夫人を訪ひ妾のいたく盆栽を愛し種々の花木美々しく生育せりと云ひければ夫人の平然として答へて曰く妾に永窮生存する四箇の盆栽あり日夜其鞠養は從事し他を顧るの暇なしと實に夫人の深く育兒よ心を用ゐ四子ともよ有爲の人物となるよ至れり○獨身者の三分一の人なり妻を得て三分の二とあり子女を得て初めて一人前とある也○世の人の多き中よも人ぞなし人人よなせ人人にあらん人

熊澤了介曰く君子の富士山の如くならんと思へるか富士高しと雖も平地よしかず万山を戴いて重しとせず河海をおさめて洩さず廣厚の誼ありと雖も平地何の見るべきことかあらん世の中少し學知ある者衆に異なるが如くなるの庭前築山の如し其の少しきなることを知るべし

集義和書

又士の義何をか先立つべきや云く律義を立つべし一言の約誓紙誓言なくとも人の見ざる所に於て人の云ひしよ違ふべからず少し問學ある者道理を付て不信なることあり譬へば人の秘する書物をかる時に先の人寫すべからず見る事のみ許すと云へば其人を信じての事也然るよかりたる人は是の善事なればかくし寫しても苦しからずと思ひて寫しとむるのかくして惡をなしたる様にのなけれ共心に律義の立ざる事ハ惡をなしたる人と同じ左様の堅固ならぬ心根あれば其事なくとも人確に思ざる也人疑はれざる律義の心を立定むべし此所なきの人にあらす

又曰く仁者の心動なき事大山の如し無慾なるが故よく靜也

又曰く君子の意思の内に向ふ己獨り知るところを慎で人に知られんことを求めず天地神明と交る其人柄光風齋月の如し
吉田松陰曰く士道義より大あるのなし義の勇に因て行れ勇の義に因て長す

又曰く士の質實欺かざるを以て要とし巧詐文過ぎたるを恥とす光明正大皆是より出づ

王陽明曰聖人之所以爲聖只是其心純乎天理而無人欲之雜猶精金之所以爲精但以其成色足而無銅鉛之雜也

ゲ一テ曰く偉人の千載を經るも尙は偉人たるを失はず蓋し偉人の事業の短日月の間に滅絶し去るものよあらず其身後と雖も尙は生るが如くなるべし即ち假令其身ハ死するとも其美言美行ハ長く後昆に傳

るも死せざるべけれバ也

徳勝才爲君子才勝徳爲小人○君子常失於厚小人常失於薄○西方之人有聖者焉不治而不亂不言而自信不化而自行蕩々乎民無能名焉丘疑其爲聖○豪氣とい何ぞや曰く或道義的感念の爲に一身を犠牲にする是也……普通の義務の普通人之を行ふを得然れ共事甚だ至難よしして何人も敢せざるの時に當り身を挺して此難局に當る者は即ち英雄也○凡そ四千年間強勇の人の豪傑の英名を得んと欲して權威の道を奔走したり而して基督の其道に立ち曰けるの汝英雄たらんと欲すと雖ども未だ其道を知らざるなり眞に英雄たらんと欲せば宜しく總ての人の爲めに愛の僕たるべし○又曰く豪邁英氣の勢力を有するの人よ存せずして其勢力を正しく使用するの人よ存す己の榮光を顯さんが爲め同類を壓倒せんと欲する者の予輩の所謂豪傑よあらず眞正の豪傑の自己の品行により衆人の心を収攬するの人あり

家庭

ピーチヨル曰く予の母の三歳の時に死去したるを以て其顔を知らざれども予の爲よの恰も天使の如く予の生涯を導きたり一日父の讀書室に至り古き書翰の箱を開き疇昔母の父に送りたる許多の書を發見せしが先づ最初契約の時より婚姻せし後のこと迄逐一記載しあるを以て残らず之れを讀み終に我母を知りたり此書の母の生涯を示す者にして基督の一代を記載する所の四福音とも稱すべし而して基督の愛に付明白簡短に記載するものあるを見たり是の約翰の福音よして神の世に送り玉へる愛の書翰なり

孔子曰鞭朴之子從父之教

東漢光武謂宋弘曰貴易交富易妻人情乎弘曰貧賤之交不可忘糟糠之妻不下堂

人間よ最も樂しきもの三あり慈母と家庭と天國也○人あり嬢や御身

の家へと問へば慈母の在す所也と答ふ○幼稚の時に死する所の見女の能く用意したる園中よ生ずる草の如し唯地を破り生出して花を開き又忽焉過ぎ去の勞あるのみ○家庭との何ぞやとの問にゼームスハミルトンの答へて慈母の愛也と云へり○凡宇宙の中家族團欒の樂に勝るものなし○一家を平和よするの秘訣の忍ぶと忍べるの二字にあり

師友

ペーコン曰く悲哀の之を朋友に語れば其半を減じ喜樂の一倍す
孔子曰不知其子視其所友不知其君視其所使
ヘルデル曰く世よ一種の妙力あり予の摸範感化の力を目して之ありと謂んとす蓋し予の良心の實は此力の爲は陶冶せられたれば也
前事の忘れざる後事の師也○總理エドワルドの親戚故舊に永別を告げし後我眞實にして曾て變らざる親友ナザレのイエスの何處にある

やとの一語を残し眠るが如く逝きぬ○琴瑟の調子の空氣によりて變じ友人の心の富の多少による○世人結交須黄金黄金不多交不深縱令然諾暫相許終是悠悠行路心○信任する親友の之が訪問を怠る勿れ街衢も人往來せざれば雜艸繁茂す

信仰門

信仰

ルーサ曰く信仰の暗昧の内に神を信ずるとなりと
シユライエルマヘル曰く基督教徒の信仰の普通の宗教上及び道德上の眞理を信するよ止まらず救主として歴史上のイエスを信じ而して其特殊の勢力の吾人信者に救の意識を得せしむるよあり基督よよりて神の意識を得る是乃ち救也

チーガスチン曰くチ、美よ古けれ共今尙新らし我汝を愛するいかよ
晩かりしや我汝を求めて外を探せしに汝の我衷に存せり

トマスアルノルト曰く信仰との神は頼囑する理性也

アイルランドの田舎に一童子あり信仰を説明して曰く心を以て基督を捕ふる也と○信仰の魂の手即ち救の道具なり手の身軀を養ふ爲に用ゆれども手よて身軀を養ふに非ず唯食物を口に運ぶにあり予輩信仰の工は依て義とせらるゝに非ず余輩を義とするもの即ち基督の功德なり○信仰の手は空き手あり基督は獻する處の悔悟の將に裂けんとするの赤心を獻げ服従の働く所の手を獻ぐるあり然り而して信仰の恩寵に満されんことを欲し唯空き手を獻ぐるなり○信仰の最も高尚なる徳義の根本あり夫れ土中に在る所の樹根の太だ醜きものにして常は地中に埋藏し人に見らるゝを好まざるあり然と雖も樹幹の壯大枝葉の青々果實の好美皆悉く根より出づるものなり信仰の猶ほ樹根の如し敬虔の神深く之を嘉賞し仁愛の人々善を爲すを貴び清潔の天國の模形なるを以て至美の稱あり感謝の天使の音樂の譜なるを以て爽快なり而して之が基本をなすもの信仰あり實は敬虔の祈念なり仁愛の善行なり清潔の善美なり皆是信仰の根より生ずるを以て信仰の萬徳の生命と云はざるを得ず夫れ身軀の靈魂其中は存するを以て生存する如く百般の事業の信仰に由て活潑なるを得る也信仰の又功德なき人を救ひしと疑なし然と雖も未だ信仰なしに救はれし者あるを聞かざるなり○信仰の千難万苦を除き得べき最上の能力なり今空中は充塞する所の雲霧を除かんと欲し百方力を盡すと雖も無益の勞よして決して除き得る能はざるべし然と雖も高山の頂に登るときは必ず青天白日を見るを得べし道德の改良も亦然りよし一の惡習を除きせんと思ふを凝すも絶て益する所なし進みて神明は近き高尚なる信仰の山嶺に登るときは惡習自ら消散し常に義の大陽を見るを得べし○人あり電氣器械を以て兒女を慰め居りしが兒輩は一兩度烈しく電氣の刺激を受たるを以て頗る恐怖し其器械は近く能はず時に

父の他の器械を出し今汝之に觸るゝも決して害は逢ふとなし誰か之を試むる者あらんやと云たれども兒輩の前日の刺激に恐れ一人として手を出すものなかりき是に於て父の兒女を訓誡し汝等予を信せざるかと云へば然りと答へ手を出す者あれども未だ器械は觸ずして急に手を引たり其内一小女あり父を信すると厚く稍手を出し之に觸しも其顔色恰も土の如くなりたり然れども父の言を信するの美なるを見て喜悅の狀その満面は顯れたり

救

ライマンアポット曰く贖の内にありて外はあらず乃ち罪を愈すこと也

又曰く罪の人の骨髓は染み込めり罰の罪の一部にして罪の存す處に罰なくんばあらず救との罪を驅逐して新生命を輸入するあり又曰く神の怒を挽回せん爲に犠牲となりしの人にあらず神人を救ふんとて己を割き玉へり……基督の苦痛の天父の悲嘆の反射也
スチブンダレット曰く何人よても亦何の教會よてもよく人を救ふ者なし救の獨り神より來る

更生

オーガスチン曰く予の旅舎に一小園あり舎主の其園内は住せざるを以て吾人の使用は供せり予の心の闘を終るまで他人の妨を避けん爲は心迫りて此園中は驅け込たり……(心中の闘頗る猛烈にして何れに従へんとも定め難く永らく揉は揉たる末)予の痛嘆の聲を發しかく何時迄ある乎明日を待たざれば此不潔を洗滌する能はざる乎と絶叫しけるとき看よ隣家は唱歌の聲あり其男兒あるや女兒あるやを知らざれども取りて讀むべし取りて讀むべしと云ふを聞けり予の此歌の兒輩の戯に唱へしものなるや否やを思考し始めしが予の曾て之に類するものを聞かざりき千行の涙の止まりぬ予の立てり予の是即

神が予に聖書を開き讀むべしとの命令なりと領解し聖書を取り先づ視線に觸るゝ言を取らんと決し之を緝けバ饕餮醉酒また奸淫好色また争鬪嫉妬に歩むこと勿れ惟なんち主イエスキリストを衣よ肉跡の慾を行ひんが爲よ其備をなすこと勿れとあるを讀み爰よ一條の明光を認め予の心を塞ぎし疑團の雲散霧消するに至れり

人ありソクヲナスを評して賤劣野卑の小人也と云ふを聞き其門弟子大に怒て評者を打撃せんとす先生之を遮り平然として曰く予性來彼が云ふ如き小人なりしも今の哲學よよりて全く更生したりとい教師ありカトウよ向ひ兄が眞正の信者たる證左ありやと云へバ予の洗禮を領せりとして傲然たり師の洗禮の水よての内心の罪惡を洗滌する能はざることを知らしめんと欲すれ共彼聖靈の感化を知らず頑然洗の特効を唱へて止まず師の起つて書齋より黒汁の瓶を携へ來り兄試よ思へ此瓶の外部を洗ふときこの内部も隨て潔くなるや彼惠然大に更生の必要を悟れり

聖潔

ポルキット曰く我心の潔められたる確証の神の養子とせられたるとなり

コルノル曰く恩寵の人心を感動せしめ其結果の善良眞正の事業よ現はるゝなり信徒たる者の宜く日々行狀を謹み衆人の前に在て恩寵の工即ち徳行を顯すべきあり

ダブリウ、イ、ムール曰く無學なる貧生宣教師たらんと欲し試験を受けるに當り聖潔との神を得たる靈魂也と答へたり蓋し之に勝る良釋解あかるべし

清心の漸を以て得らるべし仮令バ天國の一舉以て之を得べきよ非ず恰も楷梯を登る如く漸々修行の効を積て得らるゝものなり○日夜孜孜として我心を清むるときこの必ず集めて大成するよ至るべし每周毫

髮の進歩も見ざるあることあるなり試に思へ彫刻司の業を始るや當初彫
 刻をなす時の其進歩顯然として見るべしと雖も其成功の際に至ての
 業を取る甚だ精密にして前上の如く著しき進歩を見る能はざるなり
 予輩精神を清くするの工夫も亦然り不斷實意に業を修むるときは完
 全の域に達するとの甚だ難しと雖も間斷なく分進寸歩漸く佳境に入
 るなり○大監督マシオルの博學多識の君子にして其心の清潔なるこ
 との皆人の知る所あり其友人屢々清心の事に付き其思考を書に著さ
 んとを請ひしが終に其承諾を得たり其後許多の星霜を経ると雖も約
 束の如く著述せられざるを以て頻りに之を促したり大監督之に答て
 曰く予未だ著述に従事せざりき然と雖も決して約を破れりと云ふ可
 らず予著述の業を始め聖靈の感化を得て新造の信徒たらんと欲すと
 雖も予の衷心未だ日新の効を見ざるを以て只鸚鵡の如く口に唱ふる
 を欲せず余の心に未だ充分の經驗なきを以て明言する能はざるなり
 其友人神聖なる君子の名を得たる大監督にして此の謙遜なる言ある
 を聞き驚愕措く能はざりき時先生復た予未だ清心の何たるを悟る
 能はずと雖も其の概略を言ひ全く心を空ふして神慮に隨ひ我靈魂
 を恒に愛の炎中燃し之を基督に献ぐるよありと云へり○今世信者
 と稱する者多しと雖も清心の工夫を能く悟りし者の甚だ尠からん

祈禱

フラトー曰く祈禱と誓約によりて神明と常に交通するは人類の最良
 最高の働也

フライデレル曰く祈禱を禮拜式又の吾人の希望を神に陳すると云ふ
 点より考ふるときは迷信也偶像教也と云はざるを得ず蓋し本躰にか
 かる陣述を要せざる也然れ共吾人が心の望を神の嘉納し玉ふ所とし
 て告白することにしては善良なる性質を養成する上は於て貴重なる
 方法也又公衆の祈禱會の其會合者に道德上の動力を起さしむるは於

て殊よ益ありとす

普氏神學の發達

ヘゲル曰く禮拜の心の働乃ち信仰にて本我と神との活る交通也
セニカ曰く今代の人の狂妄あるの驚くは堪えたり彼等の神は對して
最も猥褻なる祈禱をなせり若し人あり之を聞くを知らば直ちに黙す
ア、彼等の人の知るを好まざる事を神前も唱ふるもの也
佛人ウイリヤムフアレルの雷の如き聲の聽衆を震動し其強固なる確

信の彼等も信仰の念を起さしめ其熱心ある祈禱の彼等を天に迄引上
げたり○人ありルーサを評して曰く氏の祈禱の時無限の神前に立ち
尊敬の心を表し其親愛する處の友人に談ずる如く神に祈れり○マク
ナヤンの忠告曰く汝宜く祈禱を勉強すべしと氏の祈禱の前も心の
用意を爲すに充分時間を費せり○祈禱の猶ほ信仰の手よて攀く弓
の如し祈禱の弓なり神の約束の矢なり信仰の攀く手なり心の願望を
矢よ付て天よ送るなり弓も約束の矢なき時ハ用をなさず弓矢備はる

と雖も信仰の腕あければ用をなさず○祈念の猶ほ空氣の如し全世界
に充滿して有機界に活潑の精神を與ふるものなり祈禱の念慮我心よ
充滿せば神慮の在る所に從ひ欣然以て活潑の工を爲し得べし○祈念
の猶ほ靈魂の晴雨計の如し快然以て青天白日の至るを待つ可し○祈
念の猶ほ地上の小兒より天上の父よ送る書狀の如し○ピーチヨル曾
て言るとあり我朝夕神を敬拜するを好むが故も受洗入會を許容すべ
しとして我前に來るものあらば必ず先づ其祈念何の効用ありしやを問
ひ然後其隣人を召集して其意見を聞くべしと

祈禱例題

蘇格蘭に於て迫害頻りに起りしとき長老教會の信者の祈念に切なり
との高名を博したりとぞ○ルーサ曰く予の事務繁忙の日と雖ども一
日の内三時間を祈念に費さいれば其の日を安穩に送る能はずと氏の
大事業をなせしに全く祈念の力によるものなり○英國法律の大家ソ

ルマウヘル曰く予毎朝神の恩言を読み祈禱をなさむるときは終日善事をなす能はずと○ギョムウエルスの一日の中密室にて七時間乃至八時間を費し夜間寢床に就く前より衣裳を床側に備へたり蓋夜中出床祈禱をなさむる爲なり○陸軍少佐ガデーナルハハロ諸氏の如き毎朝祈念の爲め二時間を費せり朝六時に陣出るときは必ず四時に起出せしとぞ○神學師ヘイリンの知人に一法律學士あり氏を評して曰く其傳道上は赫々たる偉功を奏せし固より説教の力に因ると雖も亦祈念の力に因るや頗大なりと○ボツクストン氏の功業幸福大益を公私の間より立し顯然祈念の力に因るなり同氏の家族祈念の前に常に祈禱の文を綴りたり又演説をなすや必ず其題より祈念を怠らざりしとぞ○ピーチヨル曰く人の牛酪を得んと神に祈り牛乳を飲で生活するの當然にあらず又曰く予の主の祈禱の簡短ありと思ひしが追々經驗をなすに従ひ到底之れを終る能はざるべしと信するなり若し人主の祈禱をなす時に當り一言一句意を加へ全く禱をなさんと欲せば一生を費さざるを得ず予輩此の祈を始るに我父と云ふ代り我造物主と稱せば別は深き意義もあらざるべし然りと雖ども我父と云ふ言を以て祈をなすものの聖徒たるに恥ぢざる人なるべし汝の聖旨をなし玉へと云ふ句を讀むに至り汝必ず云はん我之を祈る難きよあらずと依て其の意味を知らんと種々の臆説をかせども其の心意を解する能はず神の常に汝をして自反せしめんと欲し必ず其問をかし玉ふべし汝の性質汝の高慢の如何汝の職業日用の如何若し心を以て祈らんと欲せば決して容易の業にあらざるべし

希望

ルートルフォールト曰く予の冀望の如斯々々あらんと想像する如き薄弱のものに非ず堅剛なる錨の繩にして無限無上ある眞神の約束なり予の救の神の手と基督の剛強を以て万世不變の神質と確と結び付

たるものなり

トマス、スコット曰く我靈魂の安然の希望と恐怖の平均より成
立ものなり即ち希望を有せざるときは錨なき船の如し而して恐怖な
き時の十分に帆を張りたるも權なきが如し

ピョチヨル曰く當世の嗜慾を貪る人にして死に臨んで道を信するこ
とを望まざるもの甚だ少し然れども斯如き人の希望の頗る拙劣に
して只管地獄を逃れ天國を得んと欲するは過ぎざるなり其人の言は
當世の歡樂の飽まで之を得たり今乃ち天國の歡樂を得んと欲せば宜
しく改宗すべしと實は彼等の天國の門戸を明けんと欲し爲めに適應
の經驗を得んと欲するなり然らば其望の恰も貴族輩が大守の位を得
んと欲し之に汲々するも已は其位を得れば社會の改良の敢て意を
注がざるに同じ

又曰く人の此世にある間の短き單語を綴る小兒の如し後の世に於て
の單語を合して熟語を用ゆるあり

詩廿二、九全卅三、十八全卅九、七全七十二、五全百十九、四三、四九、
八十一、百十六箴十、二十八羅四、十八全五、四、五全八、廿四、廿五、全
十二、十二全十五、四、十三、哥前九、十、十三、全十五、十九哥後一、七
加五、五西一、五希三、六全六、十一、十八、二十約三、三希十二、二〇希
望の猶ほ悲嘆の黒雲上に顯れたる約束の虹の如し黒雲晴る時の則ち
爛々たる小星穹蒼に輝く如く凡て萬有を愛し給ふ神の吾人は希望を
與ふるなり○吾人困難に迫りたるとき其心を破裂するに至らしめざ
る者の希望の工にして將來に希望を抱かしむるの徴証なり總の物皆
過ぎ去れども希望のみ最後まで吾人と共に存するなり是則囚虜に自
由を與へ病人に健康を與へ敗兵に勝利乞食に富貴を與ふる者なり。

天國

ヘンリ曰く予嘗て天國に至るとを夢みしに許多の榮光は環繞せら

れ眞は閑靜なるは驚き其故を問けるに汝の地上はあるや恰も半分水の満たる器のごとくなりしが今一杯充滿するを以て毫も動搖することなきとの答を得たり

ホーレル曰く天國の必ず全き休憩所あるべしピーチヨル曰く全き愛なるべし甲の嘗て病身よして肉躰の腦み多く乙の常に爽快ある人なりしを以て二者の望む所各異なり然れども此二者を合するときの乃ち天國の景況を知るは足るべし

デビチー曰く智識の知り得べき範圍の實驗し得る現世なれ共此先きは理性の考へ得べき理想の世界あり

ピーチヨル曰く機械師あり橋を架せんと欲せば必ず先づ綱を渡し次に鐵線を架し其上に板をあらへ堅固なる道路を造りたる後此岸より彼岸へ渡るあり神の之と全しく吾人の最も貴重する小兒若くは友人を預備線として其生命を奪ひ之に由て父母若くは生存する所の友人

をして永生を慕ふの念を生せしむるなり

又曰く兒子長く両親の許を離れ己の家に歸るときに一人として號泣する者なし休業の朝の大祝日なり死の基督信者の休業の朝なり學校の課目の既に終れり今の家に歸るの時なり誰か天國なる故土に歸り永遠の生命を受るを樂まず久く此世に留り快樂を得んと欲する者あらんや友人の欣然として予輩を離れ天國は昇を以て之を墓に送るは當り悲き歌を唄はず花を撒布して見送る可し信者の白衣を服し喜と望を以て道を照す可き時は屢黒衣を服し涙を流す者あるなり使徒等の其愛する者の墓に天使を見たり予輩の天使を見出べきの時よ其眼目の涙は咽びて見分けざるあり

天國の門の廣濶にして許多の罪人を容るは餘りありと雖ども又甚だ狹隘よして罪惡を入るは能はず○天國の門の王侯の宮門の如く其天井高かゝらざるを以て之に入らんと欲する者の宜く膝を屈せざる

べからず○天國よの善良なる者あれども邪惡なる者無し○神の聖殿よの一方よ病院あり(病院の此の世界なり)地の一方にの基督の宮殿あり病院にの數多の信徒種々の病よ罹り診斷治療を要すれども時に及んで此の病院を去り宮殿の門開けて主の臺前に出づ其喜悅の如何ぞや吾人の測知すべきに非ざるなり○一の不學者なる盲人あり曰く天國よ至るべき一平均の路あり其中三階梯あり一の慾を制すると二の基督に従ふと三の榮光に至ると且又天國に至るよ喫驚すること三あり此人こそ天國よ於て必ず再會すべしと期したる者に逢はざると思懸もかき人に逢ふと又最も驚く可き自ら天國に至ることなり○汝必ず灣内よ波濤の爲めに動搖する船を見たることあるべし今水中に没せんとすれと没せず流れんとすれと流れず蓋水底に旋ありて之を繋ばなり如此多くの天國に昇らんとするも昇る能はず蓋隱密の罪ありて之を繋ばなり

修養門

勉強

家康曰く怠らず行かば千里のはてを見ん牛の歩のよしおそくとも
アーレンドン曰く惡魔の人の徒手遊惰の時之を撰んで其弟子となせ
ども基督の之に反し其網を繕ひ或の之を海に投じ専ら其業よ勉強す
る間に之を撰び玉へり

英佛獨米の人に一日六時間を與へて事業を課すれば米人の四時にて
終り其餘の逍遙游衍す佛人の四時にて終り酒を飲み歌舞す英人の五
時にて終り一時間の別業を勉む獨人の勉強する六時にて未だ終らず
夜間に補ひて猶其餘刻よ勉強す○大勉強にあらざれば大事成らず○
ウイリヤムケレー其子ユステースよ告げて曰く人もし予が傳記を作
らんと欲せば予の刻苦勉強せりと云ふを得るも其他よ及ばし是云ひ
過也○一時の感情よよりて動かす常よ主義によりて着々事を取る者

の必ず成功す○間斷なき勤勉力の能く山海を移翻す

警省

佐藤一齋曰く以春風接人以秋霜自肅

吉田松陰曰く平事喋々臨事必啞平時炎々臨事必滅……僕今死生頭全く絶ぬ斷頭場よ登り候へい血色敢て諸氏の下にあらず然れども平時の大抵用事の外一言せず一言するときは必ず温然和氣婦人好女の如し是が氣魄の源也慎言謹行卑言低聲よなくての大氣魄の出るものよあらず張良鐵椎及時の面目を想見るべし

王昶曰夫物速成則疾亡晚成則善終朝華之卿夕而零落松柏之茂隆寒而不衰

孔明曰鞠躬盡瘁死而後止者亮之志也

チーガスナン曰く爰に在らざる人の非を鳴らす者の此食卓よ就くを許さず

司馬溫公曰吾無過人者未嘗有對人不可言者耳

ソクラテス曰く最もよき辨護の惡をあさざるにあり

ピーチヨル曰く人を殺すの働よ非ずして怠惰なり怠惰の恰も劔戟を腐らす鏽の如し車を潰す者の回轉に非ずして刺撃なり

眞理よりも基督教を愛するが爲よ斯教よ入りしもの基督教よりも自己の宗派若くの教會を愛するよ至り終に何よりも多く己を愛するに至らん○救寒則莫如重裘止誘莫如自脩○仁者不以盛衰改節義者不以存亡易心

誘惑

フレベル曰く汝彈藥を携帶せり能く點火せざるやう注意すべし火を放つ者の惡魔なれども彈藥の汝の有する所なり

誘惑の信者を教訓するものなり誘惑よ遭遇すること實よ困難なりと雖も誘惑なきに比れば遙よ勝る所あり○惡魔と戦争するの之と一致

するに勝れり悪魔の車輪の屢當世の安佚と云ふ油を注ぐを以て何の音も無く能く軌なり○毒虫地下に在と雖も草木其上に繁生するを以て鎌を以て之を掘鑿するも非れハ毒虫を發見するに能はざるべし誘惑の即ち信徒の心を掘鑿する鎌として心中の大悪を見出す者なり○悪魔の約束の獵夫が鳥を投ずる肉の如しこれ決して鳥を養はん爲に非ず反て之を捕へんが爲なり○信者の此世にあるや悪疫の流行する地方に住が如し時々其義務を盡さんが爲め危険の場に臨まざるを得ず然りと雖も好て危を犯すに及ばず傳染病に罹りたる者を介抱するか若くは尋訪せざるを得ざるべきに必ず先づ能く注意すべし○天使の如き清淨潔白なる心を有する者の悪魔の最も惡む所なり悪魔の人を誘はんを欲するや必ず富貴傲慢貪慾を以て餌とあせり○神の人を召し玉ふや必ず多事の日を以てし悪魔の怠惰無事の時に乗じて惡に誘ふなり○西洋に「カマリチン」と云ふ虫あり蠅若し他の蟲を捕へんとするときの必ず草色に化すると云ふ悪魔の人を誘はんとする時にも亦然り予輩の心は好む所の富貴利達等を以て其網に引寄せたるなり即ち信仰の練達せざるべきに必ず過誤に導き良心正しきとき疑惑に導き大膽あるとき我慢に導き柔弱なるとき移遷に導き疑惑深き者の失望に導き頑固なる者の不信反逆を誘ひ嚴肅なるもの猛惡に柔弱なる者の姑息の仁を教務に熱心ある者の妄熱心若くは迷惑に導き我心冷かなるとき蠢愚を導くあり此の如く我前も阱を設け百方力を盡して其中に陥らしめんとするなり眞正なる信者の試みらるゝや恰も清泉中に泥濘を投入するが如し速にもとの清水に歸るなり○古人の忠告に曰く決して悪魔と議論をなす可らずエバの園中にあるや蛇と議論を始めたるより終に敗を取り悪魔の論事矩に絆され遂に樂園外へ論出せられたり悪魔の罪の上は漆を塗り徳義の如く見ゆるしむるなり卿等之と論するとなく宜しく戦ふべし

喜樂

ヂヨルナムレノル曰く全く己を神に献るときの喜あり
熊澤曰く憂苦を去て悅樂を求るの俗樂也天地陽のみよして陰なきこ
と能はず人生の境苦互よ至れり苦といへども去ること能はず樂を求
れども得ること能はず偶樂を得ても樂中よ苦を生ず況や患難の來る
こと冬の寒氣の至るが如く電の影の如く幻の如にして其有無を定め
難し眞樂悅樂憂患を二にせず憂べくして憂といへ共心中人欲の交り
あければ其樂を改めず悦ぶべくして悦といへ共心中人欲の交りあけ
れば樂んで淫せず怒るべくして怒るといへ共火氣の助なければ心跡
廓然大公よして本跡の正を失はず

德行

佐久間象山曰大蓋天下、而後能容天下、仁蓋天下而後能懷天下、信蓋
天下而後能約天下、義蓋天下而後能服天下

フヰヒテ曰く人の終極の目的も全社會の終極の目的も俱に徳よ進む
にあるが故に學者が社會よ盡す所の事の一切の人類を道德的よ高む
るを以て究竟の目的とせざるべからず

中江藤樹曰く吾人徳を脩むことを思ひ日々善をせんのみ一善益
す時の一惡損す日々善をなさば日々惡退くべし是陽長する時の陰
消する理あり久しく怠らずんば善人とならざらんや
トマスアルノルト曰く人をして眞よ力あるものとなすの學問にもあ
らず天才よもあらず道德上の思慮深き事是也

ピイチヨル曰く人の世にあるや必ず林檎の樹の如く人もし園中を徘徊
せば芳香を四方よ放ち其所在を知らしむべし又曰く暗夜よ提灯を
携へ歩行する人の周邊よの數多の友人群集し其光線の助に依て安然
よ歩行するを得る如く心中よ天賦の望の光を有する人の暗黒よ迷へ
る人を助くべし蓋己自ら損害を受けざるのみならず其光よよりて多

くの人よ貴重の利益を興ふるなり

溫柔

チヤメイカにて宣教師里人の子に柔和なる者の福也との何の意なるやと問ければ荒々しき問に對して温和なる答を答す者の福也と云へり○牧師某講壇に登るや常に信者を遣責するの辭あり執事の之れを憂ふるの餘り一日師を自宅に招し晚餐を供し食後家族の祈禱をなすに際しいと古びたる聖書を取り出し約翰傳二十一章を繙き其十五節に至りヨナの事シモンと爾これらの者に過て我を愛する乎……イエス彼は曰ひける我羔を打てと讀めり尙ほ十六節の終に至り我羊を擲けと讀み首を上げてガロリと師の顔を見尙ほも讀み讀けよれば師の深く自己の過を悟り爾來決して譴責の語を發すことなかりしといふ

誠實

アルント曰く忠誠の長へに天地の間を留るの理也全幅の精神を賭擲するの冠冕を握る所以の數也請う奮つて事に從へ絶て沮喪する勿れ蓋し天の到る處に照臨す獨行の操行獨尊の意志あらば全般の贏利亦安んぞ難からんや

エモルソン曰く人の皆其獨なるときに誠實なり然れ共他人の其前に顯るゝや否や直ち偽善虚飾の事起る

サビーエー師未だ東洋傳道の途に上らざる時羅馬府の病院に在りしが其友ロツドリゲーズ毎夜師が寢床の中に轉々反側しいと誠實にチ、神よモー少しモー少しと絶叫するを聞けり彼其何意たるを解せざりしが後に至り師が東洋傳道を思立ち印度の熱地支那の大陸日本の島嶼を神の王國に歸せしめんとの念願が結んで夢となり終に神に向つてモー少し多くの働を爲さしめよとの叫聲なりしを悟りしとぞ○ホイトフフィールド両手を廣げて熱心に罪人に向ひ將に來らんとす

る神の怒より逃れよと叫びしに人あり石を投せんと身構へするを見雷の如き大聲を發して之を一睨し汝の即ち其人也と云ひければ彼の恰も電撃に遭ひしものゝ如く大に畏縮し終り迄肅聽し翻然罪惡を悔改し遂よの說教者となれり

心事

フラベル曰く改心よ於て最大なる難事の心意を神に獻納することなり改心の後に難事とすべきの神と心を一にすることなり恩寵に満ちたる心と雖も猶ほ樂器のごとく外物の障礙に遭ふ毎に音調を整へざるを得ず

ルーカ曰く予ロマ法皇及び大監督よりも一層深く予の心を恐るゝあり蓋予が心中に大法皇あり私慾是なり

ロットフォールト曰く衆人罪を犯す時は大に惡鬼を憾むと雖ども偽言を吐かせ食を貪り惡をなさしむる者の己なり故に己よ克ち基督を

して我主と奉尊するものハ福なり

フィロー曰く予屢親戚故舊鄉國を離れ寂寞無人の原野に退隱し予が思想を導き以て高尚なる默想の佳境に入らしめんとせしも其詮なかりき或の予が思想の數千里外に飛行する事あり又或の不潔の感念生じ來つて思ひざる邊に落ち行きし事あり尤も時として神予が胸中を静め玉ひて獨り心と相對することもあり是に於て乎初めて知る善惡邪正の觀念の時と處を撰はず湧き來るものよて只之を矯正するものハ心舟の針路を支配する神の掌裡に存するを

佐藤一齋曰く終年奔走於都城内不自知爲天地之大時可泛川海時可登邱嶽時可行蒼莽之野此亦心學也

熊澤了介曰く志を持するにハ伯夷を師とすべし衣を千仞の岡よふるハ足を万里の流に洗ふが如くあるべし衆を容るゝことハ柳下惠を學ぶべし天空うして鳥の飛にまかせ海廣くして魚の躍るに従ふが如く

なるべし

又曰人見て善とすれども神の見ることよからざる事をばせず人見て悪しとすれども天の見ること善事をば之をなすべし一僕の罪輕さを殺して郡國を得ることとせず何ぞ不義と與みし亂に従はんや

橄欖の之を摧折せざれば精油を得る能はず葡萄も亦然り如此神聖も富み馥郁たる芳香を放つもの眞に罪を悔改したる心なり箴二十六〇廿六我子よ我に汝の心を與へよ蓋先づ心を與へざれば豈も他の者を與ふるを得んや〇貧しくして諂らはず卑くして屈せざる信者の心の恰も隔遠の地より來たる船に積む處の粗糙なる「カパン」の如し表面の粗惡なれども内に眞珠金剛石を藏むる也〇エリサベス(女王)の御宇に當り凡そ英國人民たる者の國立教會を奉せざるべからずとの令を出したり時よロマ教徒法皇の尊慮を伺ひけるよ訓示あり曰く英國の信徒よ布告し各其心を獻納せしめ其他の女王の勝手に任すべ

しと口よ信徒と唱ふるも心を神と獻せざるもの偽善詐欺許の人たるを免れざるなり〇眞正の自尊の己の事を思ひざるあり

謙遜

ピーチョル曰く予輩の假令如何なる高尚の地位に達するも決して無學下賤の人と遠ざからず益々謙遜にして己が達せんと欲する頂上に彼等を携へ上ると最緊要あり

又曰く花の露を含むるときよ必ず其頭を垂る然ども人の天の恩恵を受け心よ滿るより慢心を生ずるなり

又曰く高貴の君子の己よりも高貴なるものよ比較して己の價値を計り賤き小人の己よりも卑き者よ比較するなり一の謙遜して進歩するの心を生じ一の傲慢にして威福を張る者なり

パウロの謙遜の徳よ於て三大進歩を顯はしたり第一歩の哥前十五〇九(紀元五十五年)使徒と稱ふるよ足ざる者なり弗三〇八(六十四年)

よ予諸の聖徒の中に最微者よりも微なる者なり提前一〇十五（六十五年）罪人の中我の首ありと云へり〇最上の天に翱翔する雲雀の最下の處よ巢を構へ最美の音聲を發する鈴虫の夜深け人靜りて後草葉の蔭よて其聲を發するなり〇良果を結ぶ所の枝の低く垂るあり〇多量の重荷を積たる船舶の深く水中よ沈むなり如此至善至美なる聖徒の最も謙遜也〇真正の謙遜の我自ら卑しと思ふの念より出づるよ非ず反て我事を思ひざるよ依て出る也〇謙遜との自ら謙遜ならざることを知るよあり〇人ありオーゴステンは問て曰く教務上に於て第一とすべき者の何ぞや曰く謙遜なり第二の曰く謙遜なり然らば即ち第三のと問へば又謙遜なりと答へたり〇一婦人あり著名なる博愛家の許に至り幼孤を養育せんとを哀求したりしに幾分か給助すべしとありければ婦人の欣喜限りなく手の舞ひ足の踏む處を知らず此子成長せば必ず卿の洪恩を鳴謝すべきことを教ふべしと云ければ彼之を誠めて

曰く是れ大なる誤謬なり予輩降雨のためよ雲に向て謝する所以を知らず宜しく雲雨を給與する所の神よ感謝する事を教ふべしと〇謙遜との粗服を着し貧人と交際し只外部の事にのみ卑下するの謂にあらす是れ真正なる謙遜の結果なりと雖ども往々外部よのみ謙遜の状を表するものあり〇テマルスなる者あり蜜蠟を以て己の身と其子アイタルに羽翼を付けクリイト嶋（地中海にあり）よ飛行せんと欲し之を試みしがアイタルの血氣よ乘じ高く上ることを好み充分高上の天に至る時太陽の熱氣頗る烈しく蜜蠟これが爲めに溶解し直に洋中に沈没したり其父の頗る謙遜にして低き所を飛行せしを以て此危難を免れキマよ達シアポロ神の宮殿を建築せしとぞ（昔話）

仁愛

ルーサ曰く愛の一致の感情あり故よ長く愛賞せし者への之と一致し永久喜樂を同ふせんことを望むなり

イハンス曰く愛の人心を開く最上の鍵なり愛の生命の太陽よして朝夕の最も麗のしく正午(正午の中年を云ふ)に於ての最も暖和にして堅固なり

ヂヨンハワルド(監獄改良家)曰く予のイスラエル(信者を云ふ乎)よ對し甘露の如くならんを期す甘露の夜深け人静りて後下るもよく萬有の中心を濕すもの也

ヒーチヨル曰く心に愛あるときハ必ず其眼に虹ありて種々の美色を呈するあり

又曰く吾人の生長するハ恰も平野に生ずる樹木の如く四方に枝を生じ青々と繁茂するを望むべし凡そ社會の人の林中の樹木の如く高く亭立すると雖ども其枝葉甚だ微弱にして僅に相互の助けよよりて立とを得るあり一朝不幸よして林を開き己獨り殘留せらるゝとあらば必ず暴風の爲め吹倒さるべし

愛の物質の物質界に缺くべからざる如く教會に於てハ須臾も欠く可らざるものなり即ち物質界に於て引力なき時の萬物皆崩潰す可し道德界よ於て愛なき時の人々相互に殺戮亡滅すべし○神と基督の慈愛ハ其廣大なる之を譬ふるに物なし上を望むも限なく下を臨むも又限りなしアダムス曰く誰か己の罪を測知せずして神愛の深さを悟り得る者あらんや凡て神の完全なると其働の廣大なるハ皆愛の顯現したる者なり無限の力との愛の力を云ひ無所不在との神の物を愛し之が爲めに思慮するを云ひ智慧との愛の計畫よ外ならず福音を與へ玉ふハ愛を以て人を導き律法を以て譴責するハ愛を以て人を諫め玉ふこと、知るべし救主の人となり玉ひしハ其慈愛の寛裕なるを示し其涙ハ慈愛の露よして世界の即ち其慈愛を演出する劇場なり天國の即ち慈愛の山よして其頂より神愛流出し數千の川流となりて山麓の教會に灌漑するなり○萬有の中にて最大なるものハ人也人の中にて最大

なるもの心あり心の中よて最大なるもの愛也○若し汝其兄弟を愛せずバ口よ神を愛すると云ふも益なし蓋し神を愛するより其隣を愛するの心生じ又其隣を愛するより神を愛するの心を養ふべければなり○真正なる兄弟の愛の眞實惜むとなき心より起るなり潤澤ある水の源泉より流れ出る者よして狹隘なる口より出るものに非ざる也○亞弗利加の南よ癩病院あり英國教會の牧師ハルベル氏一日近傍の岡に登り患者の勞役するを見しが就中最奇なりし手なき人と足なき人と豆を畑よ蒔んと欲し手なき人の足なき人を背負ひ種袋を肩よ掛け上の人の彼所此所に播種し下の人の足を以て種を地よ踏み込み稍く一人前の働をなせり是乃ち眞の一致にして基督の信徒たるもの宜く相互よ助くべきなり

勇氣

熊澤了介曰く氣質よ得たる大勇も死を輕じ物よ勝こと誠よ君子の

勇に似たり然れども心地光明ならずもし勇者道よ志ありて蓋藏なく語らしめば必らず恐るゝ所あらん心よ感あるもの恐なき事能はず君子の感なし知仁勇の心の一徳あり故に君子の恐るゝ所なき也小人の勇氣のよ得たる故氣にいさむされバ死すまじき所にてても死し又死すべき義に死せざる事もあり君子の義にいさめバ死すべき義を見ての此身をすつること破れたる脚鞋の如し

集義和書

ピーチヨル曰く何人よても神と偕よありて正直の道を守るときは全世界の人之よ反すと雖ども必ず多數に居る蓋し神の全世界の人民よりも大勢力を與へ玉へばなり

又曰く予輩勇奮よして困難を忍ぶこと宜く新英の童子が嚴冬に寒氣を凌ぐが如くすべし學校の白雪を戴く所の丘陵の上に在て童子の家を離ると七八町もあり然りと雖ども童子の爐側よ猶豫するなく書籍を肩よ負ひ帽を外套に繋ぎ嵐よ向て出行けり其上よ至れば北風凜

烈膚を刺すと雖ども籬の下に休息するか若くは近傍の家に至りて暖を求むることなく堅く外套の釦鈕を締め靴の雪を踏み落し決然として少しも恐るゝことなく豪腸男子の精神を備へ凜乎として校舎に至るあり今汝の身の上に災難の嵐吹來り一生の愉快の春の過ぎて患難の冬來り雪霜は犯さるゝ時に當り卑屈の情を起し或は路傍に倒れ或は正道を離れて一時の安佚を取らん爲めに躊躇する等の非擧をなさず凜乎たる精神を振起し神の冥助を頼み一步も退くとなく進で之に當るべし終は大勝利を得るゝ至らん

人々勇氣に乏しきを以て偶才智を有するも世は益する所なし勇氣の活眼と活力を有するなり○眞正の勇氣を有する人にして此世は恐る可き者二あり神と己是なり何を以て己を恐るべきや衆人多く己の情慾は迷ひ遂に罪惡に陥るなり然り而して一度己の正義なるを確知せば千万人と雖ども我行かんと勇氣を發するなり即ち義と知るとき

の世人の褒貶毀譽を顧みず必ず之を爲すべし惡と知らば假令身の粉塵となるも必ず之を避くべし是則ち眞正の勇氣を發する所以也○クリストム羅馬大帝の前は召されしとき救命あり曰く汝今基督教を棄てざれば放謫の刑に處すべしと曰く是陛下の能せざる所なり蓋世界の神の家なればなり陛下決して臣を放謫する能はざるべし帝曰く朕汝を誅戮すべしと於是乎かの信仰の祖先とを稱でせられたるクリストムは毫も恐るゝことなく揚言して曰く我生命の神は於て基督と共に藏しあれば陛下決して之を奪ふ能はざるべし帝曰く汝の財寶を沒収す可しと曰く臣が財寶とする處は陛下の知らざる天に在り臣の心も亦彼に在り然らば則ち朕必ず汝を放逐し一の友人と雖ども同伴するを許さず曰く是亦陛下の成し得べき所に非ず我友の天に在り陛下決して臣をして彼の友より離れしむる能はず臣今一言を呈せんと欲す陛下の今臣に少の妨害をもなす能はざるなりと○ルーサウナム

スの會議に召喚せられたる時チャールス五世より護身の特許ありし
よ拘へらず其友人危難の其身に及ばんとを恐れ此行を諫止せんとせ
しよ彼答へて曰く假令ウナムス中の家屋の瓦礫皆惡鬼の軍なりとす
るも予の主耶蘇基督の名よ依り必ず行かんと決心したりと

果斷

吉田松陰曰く死而後已四字言簡よして義廣し堅忍果決確乎抜くべか
らざるもの也是を捨てて術を失し

歐土第一峻山の名ある亞爾卑斯の四時白雪を冠し巍然雲際よ聳へ其
險峻なる大行山の如き之に比せば坦途なり群山重疊懸崖絶壁人足
の至らざる所多し冬時よの寒氣嚴烈至る所氷田雪谷ありて其危険筆
紙の盡す所よあらず彼威名を宇内に轟せし奈翁ハ今此の險峻を越ん
と志ざし工兵マレスユットに命じセントポルナルトの峻阪を測量せ
しめたりしが即ち超ゆべしと上申するを聞き直よ進軍の號令を發し
三万の歩兵を引率し砲銃糧食を備へ難路を攀躡り登ると愈高けれバ
愈峻を増し數千仞の懸崖も數百丈の絶谷も奈翁の志を屈するよ足ら
ず暴風に逢へバ勇奮の氣象を激發し塊雪の崩下するよ逢へバ丈夫の
武勇を堅固よし遂に安然よ伊太利の地に達するを得たり予輩如斯き
の果斷堅忍を有せば何事か成らざることあらん奈翁曾て字書より不
能の文字を刪除せんと欲し又不能との愚人の形容詞なりといへり
とぞ

爵位頼むよ足らず

今茲に一大松樹あり其頂の高く空際に亭立し其枝の廣く四方に垂下
し鳥の梢に鳴き獸の樹蔭に憩ふほどの巨幹なりしも颶風の爲めに吹
倒され今のはや鳥獸昆虫に蹂躪せらるよよ至れり然れども樹下よ謙
遜の地位を占めたる草花の少しも暴風に害せらるよなく愈其綠青を
増し益繁茂するを得たり今を距ること凡そ三百五十年前英王顯理第

八世の朝は教宰ウールガーある者ありたり大は帝王に寵せられ貪婪極りなく金銭を費す恰も塵芥の如く實に一世の俊才にして事業を企つる最巧に威福を張るを好み榮譽を得るを以て最大快事となせり彼其青雲の志を達し遂は宰相の顯職は昇りしも一たび王の譴怒は觸れ家財を沒收せられ金銀を鏤め裝飾したる王宮金杯銀瓶其他百般の器物皆王の有に歸しリイストテルアペーに於て病氣に罹り（世人自ら酖毒を飲みしと云ふ）終りに臨み監視の官吏に向ひ嗚呼予帝王は事へたる如く忠信誠實に天父は事へしからば斯く白髮の身とかりて放棄せらるゝこといなきものをと云ひ長大息をなせしとぞ

憤怒

熊澤了介曰く有徳の見る所大なる故に世事軽くして心よかゝらず故は怒なし心よ眞樂あり世間の願なし凡そ人の心狭くして怒あり道德の樂を知らずして愆ある者を以て見るときは忿怒の堪忍しがたきとよく忍びすぐすとを見るべし

看よ茲は獸王獅子あり其怒れる状を視るよ毛髮倒まに立ち眼光射るが如し一たび吼るときは山岳爲めに潰裂するかと思はる今彼れ其尾を振り鬣を動かし其前足を指上たるは如何にも猛烈なる有様あり而して其怒る所以を尋ぬるときは甚だ笑に堪たり彼己の像の水面は映するを知らず顔は對し手は對し怒氣四体は溢れたるを見て之を一撃の下に殲さんと怒れるなり何を感へるの甚しきや怒はど人心を動かし人類を害するものなし怒氣一たび發し其極點に達するときは兄弟の血に塗れ村落の劔戟の爲めは荒され市街郡國皆悉く灰燼とあるよ至る實に恐怖すべきなり人の獅子の如し自己の影を怒るものあり若し隣人害を加へかば其實否を糺し怒を止め恨を去り其罪を寛容すべきなり

迫害

卿等宗教の爲めは迫害を受けるとあらば假令身の粉塵となるも宗教の之が爲めは毫も害せらるゝとなきを忘る勿れと實は銘肝忘るべからざるの確言なり○迫害の即ち收穫のときなり信者の其殻を失ひ偽善者の其實を失ふなり卿等試み教會史を看よ教會も時に大に衰微したることあり斯の如き衰微を來す決して容易の事よあらす此間信徒の殘酷の刑に罹りたる其の幾千人なるを知らず卿等再び教會の隆盛なるを見る是れ聖徒の焚殺せられたる火光に依るあり此の如く教會の數危険を侵し艱難に遭遇せしも少しも退歩することなく今日に至りては益盛大になり終に世界万国の人を降伏せしむるに至る可し○教會を迫害せしものよして終を全せしもの甚だ尠なし羅馬大帝ニロー、セベラス、の自殺しトミンシヤン、ツレヂヤン、マキシミン、レシユス、カールロス、ワレリヤン大王クレシヤン、シユリヤン皆他人の手は罹りて死を遂げたり○彼等の市外は我を放

逐せんとするか然り而して天國の都邑より予輩を放逐するを得ざるなり若し彼輩予を惡み天國の都邑より予輩を放逐し得るとせば實は予輩に取りては大事と云はざるを得ず然れども此事をあし得ずば如何程予輩を迫害するも水滴を以て予輩を突き風を以て予輩を撃つも異ならず○最も欽慕すべきポリカルプ其方さに搜索せらるゝを聞くや少しも動せず依然此市「スモルナ」に留らんと決せり然れ共多くの友人の勸告に従ひ終に市を距る程遠からざる僻地に退き友人五六輩と相會して晝夜衆庶及び教會の爲に祈禱し其縛せらるゝは先づ三日其祈禱中一の幻象を見たり看よ彼の首を寄せたる枕火に罹りしが如く見せければ近侍の人よ向ひ予の將さに生きながら火中よ投せられんとすと云へり……僕の白狀によりて彼の所在顯れしかば遂に捕はれて市に曳き行かる……保安官へロデ其父ニケトスと偕しポリカルプは面接し翁と馬車に同乗し左の語を發せしめんと勸めたり神

カイザルと唱へ例日に於て佗の禮典と偕にカイザルに祭物を供へたりとして何の害か之あらんかくして自己の安全を求めての如何と云ひしに翁の黙然たりしが愈勸めて止まざるを以て遂に口を開き予の汝の忠告に服する能はずと云へり彼等語を聞き嗔を發し翁を車より突落せり翁の落る機は脛を破りしも平然として法廷に向へり法官曰く汝老躰を顧みよカイザルの運命によりて誓へ悔改して無神者の羣を離るゝと云ふべし翁法廷の異教徒を見廻し天に向つて無神者よ去れと云へり時法官の基督を罵れ去らば予汝を許さんと云ひしかば翁毅然として答へて曰く予の八十六年の間彼は事へしに彼曾て予を害を加へし事なし今も及んで焉ぞ能我王我教主を罵るを得んやと法官曰く我は猛獸あり汝悔改せずんば獸群中へ投せん翁曰く猛獸を喚ばれよ予善を改めて惡を爲す能はず惡を去りて義に就く當然爲すべきの事たるを知る法官曰く汝猛獸を懼れずんば火焰の中へ投せん翁曰く汝暫く燃れ共直ち滅する火を以て予を威嚇す然れ共汝の不信者の爲は備へられたる永窮不滅の火を知らず汝何を躊躇する乎請ふ汝が爲さんと欲する處を爲せと云ひ放ち遂に火刑の處せられたり壯也と謂ふべき也

カチロンダンドロー佛王ヘンリー十一世の前にて其信仰を糾問されし時左の如く曰へり陛下よ宗教の事に付ての隠蔽する能はず又神を欺く能はず是臣が爲さんと欲するも爲す能はざる所也臣の生命財産官爵に付ての陛下尊慮のまゝを爲し玉へ臣の靈魂に付ての之を授け玉ひし造物主よ一任するの外なし決して陛下よ從ふ能はず他語以て之を云へばミサの祭(新教信者の嫌忌する天主教の祭)に參列せんよりの寧しる死を欲するもの也と

猶 豫

チーゴステンの基督よ信從する前、常に耶和華よ我身を清潔に保衛

し罪を犯すことなからしめよ然れども予の未だ之を求むるは非ずと云へり歴山大帝の之は反し汝何を以て世界を略取せしやと問ふものあれば即ち之は答て唯猶豫せざるはありとシーザル、ナポレオン其他の英傑皆然らざるはなし
猛虎之猶豫不若蜂蠶之致螫騏驥之踟躕不如駑馬之安步孟賁之孤疑不如庸夫之必至

罪

ピイチヨル曰く人常に予の罪人なりと云ふを得るも其罪を逐一白状するを欲せず若し人其罪を知らば己の名譽を損すべしとして之を隠す者なり予の罪人なりと云ふも其行に至て正き者なりと主張するなり又曰く當世に於て大罪人と稱すべきは最も高尚なること私慾を働き其才能を用ゐ下賤無學の人より遠ざかり千秋の雪を冠する山頂に達する氷の上に座し万物の上に位せんと欲する人あり

ムイデー曰く一の罪を犯すは百の罪を犯すと同じ丈餘の鐵鎖も其一部を損せば全部を破りたるに均し

新島氏米國に於て改信の當時禁煙せんと欲し悉く煙具を放棄したりしに一日室内よりあり喫煙の情魔舊時より倍するの勢焰を以て襲來しかにも堪ぬ難く起つて葺屋に到り二錢銅貨を投じて陶器製の煙具を得將さよ火を點せんとするや内より聲あり曰く汝大志を起し數千里の波濤を越ぬ此新英は在りて一小慾に克つ能はず汝の前途知るべきのみと氏且驚き且恥ぢ爾來全く禁煙の主義を守れりとぞ○ホテントットに於ける宣教師會議に於いて吾人の何ぞ神より受けざるものある乎との問に對し五才の一小女あり答へて曰く只一あり罪是也○一の虚言を吐くときその之を蔽はんが爲にの少くとも三四の虚言を加へざるべからず

練磨

ピーチョル曰く世界の創世のときの如く卑陋の景状も止ることなく樹木も亦種子のときを以て最小なりとす凡て宇宙間もあるもの種子なり昆虫あり獸畜なり人類なり信者なり何一として練磨と進歩よりて完全の點も遠せざるのなし神の人を造り玉ふや最下等の點に始め何一として彼の爲めもなせしことなく自ら之を志すべき地位も導き玉へり神の人を助くるの唯自ら助くるの精神を喚起するにあり苟も悲嘆過誤凡て人の不善と呼ぶ所のものの練磨の器械にして全き人たるの修行をなさしむる爲あり

博士パール一日多くの人士と教育問題に付て談話ありしに青年紳士傲然として練磨の青年の氣象を毀損するのみ更に其効益を見ずと陳したり博士の默然として傾聽せしが其語の終るを待ち肅然容を改めて此紳士に向ひ君よ予の君が練磨に反對するを驚かず實に練磨の學士を起り紳士を作るもの也而して不練磨の君の如き人物を作ると知られと云ひ放てり○予輩一生の内に不慮の禍も罹り試に逢ふことあり是の神の射玉も銀の矢もして予輩の心に貫かんと欲する者なり是の忍んで受べき者もして氷雪の如く直も溶解する者もあらず忍んで之れを受くるときは少の苦なきにあらざれども毒を受くこと少かりし

教會門

教會

ピーチョル曰く教會に二種の人民あり一の宗教家にして正義を行はんと欲し神を愛せんとする者なり一の眞正の信者もして神を愛するの心より義務を盡すに熱心なる者あり

又曰く人あり教會も入らんと欲せば予の此の如く清潔になりたる上の聖徒の列に加へらるゝも妨がしと云ふ可らず唯兄弟も予の弱くして罪を犯し易く獨立する能はざるものなりもし予を助けんと欲せば

願くは予の爲に戸を開き其中に入らしめよと云ふべし

基督信者

ライマンアボット曰く天主教會のカイザル政治の跡英監督教會の猶太教の遺物長老派の希臘哲學學校の形式獨逸教會のチユトニク派個人思想の形見也

フライニー(信者を迫害するの任ありたる高官の人)曰く彼等(基督信者)の罪又の過として見るべきもの定りたる日に於て東天未だ白げざる前神は奏するが如く基督に讚美の歌を奏し且嚴なる誓約を立て決して惡事を爲さざるのみならず詐欺竊盜奸淫を犯さず虚言を吐かず委託に背かざるにあり

チャールモルス曰く家を訪問する牧師の教會に行く人を造る

ピーチヨル曰く都ての基督教會に一種無類の空氣あるを要す若し人來りて二時間其内は棲息せば必ず天國の傳染を得て家は歸り敬愛の祭壇を設け天國に至るの道を開くべし

又曰く基督の信徒と稱するもの鐵道停車場の如し惡人の其裨益を知らずして之れを經過す此の時よあたり信者の「ポイントル」(鐵道の支線に設くる器械なり)の如く一の線路より他の線路に移らしむるあり

又曰く困難に陥りたる人よ一の助言を與ふるの鐵路の「ポイントル」の如く之を潰敗せしむるも亦安然の地に至らしむるも只毫髮の間あり

信者と此世の關係 信者の世よ在るの猶は心靈の躰中よ在るが如き乎心靈の躰中の各部分に存するが如く信者の何れの都府も散在する也心靈の躰中よ在れ共躰にあらざる如く信者の此世に住め共此世のものよあらず見ゆる心靈の見るべき躰中よ在り信者の此世よ存することの人よく之を知れ共其敬虔の念の見ゆる也……肉の靈よ

逆ふ如く世の信者を窘迫すれ共靈の己を攻むる肉を愛する如く信者の此世の人を愛する也　マセテスマイナグチトスよ送れる書　信者よ汝の善良なるを以て足れりとせず充分光輝を放たざるを得ず汝が顔よ顯す凡百の光の内よて遠く海に達し困難に陥りたる水夫をして港を求むるの心を起さしむるの喜なり最も深く悲むるときと雖ども神よ於て喜ぶべし○基督の信徒たらんと欲せば神學を學ぶとを後よして宜しく敬虔の心を養生すべし正き行をおし道を踏む者の正しき考をなす者なり然りと雖ども多くの道を求むるの心發起するに當りて問答の書及び註釋等を求むるなり彼等元より淺薄ある信者たらんと欲せば神學を勉強するの當然なれども悔改と眞愛との必ず先づ務むべきの急務あり先づ罪の病に罹りたる靈魂をいやし然後神學を求むるを晚しとせず假令茲よ人あり「コレヲ」病に罹り九死一生の場合よ臨み醫者を招き書林に人を走らせ病理學に付きあらゆる著書を購求し己の腹中病毒の益烈しくなるよ拘らず予の醫師の助を求めず必ず病理のある所を尋ね其奧義を究めんと云のい人之を何とか云はん予を以て之を見る時の患者の爲めよ病毒を去るの尤も急務なるを信す○教會もし其勤を盡さいるときに眞正なる教會の戸の外即ち社會にあり○毎日早朝神の聖坐に近づき清淨なる思考を起し其日よ「バプテスマ」を授くべし朝の始めの一時間の其日の楫と知られたり

安息日

安息日の主の日休息の日即ち日中の眞珠と稱せられユダヤ人の光の日と稱しアフリカ人の黙念の日と稱し印度人の祈念の日と呼び昔の信者の日の女王と稱せり○人生四十年中安息日の數六年あり七十年に十年あり予輩責任の重大なるを知らずして猥りに之を費す可らず○凡そ十年間晴雨計を以て計算したる試験表に由れば一年の間

に雨天の日平均五十七日あり之は降雨の日を加ふる時の平均七十日あり今予輩の考ふる所は依れば安息日と雖雨雪の降り來るを免れず毎年少くとも雨天の安息日十日あるべし即ち五日は一日の雨天なり若し雨天なるを以て會堂に行かざる時の五年はの五十の安息日を失ひ四十年はの四百の安息日を失ふ也○ピリピンリーの愉快な安息日を送る人なり曰く予若し此日を以て天國に至るの道とせずんば外に道あるを知らざるなり○ウイボルホルス曰く安息日の往昔イスラエル人が神の冥助によりてヨルダン河中に平和の道を得し如く塵事繁忙の波間は發見したる平和の道なり予眞に安息日の如く貴重なる日あるを見ざるなりと一千八百年一月十六日月曜日を以て國會を開かんとせしかの氏の之を聞き直にホルシワルに書を寄せて曰く若し月曜日は開會するときの衆議員必ず日曜日に旅行せざるを得ざるにより宜く開會の日を延ばすべしと即ち十九日月曜日まで之を延ばしたりとぞ○ユリーリーデ安息日の朝其友人に謂つて曰く上帝の予輩に安息日を賜へり予に取ての恰も一年に五十二の春を迎ふるも同じと○新大陸に於て最も欽慕するは堪へたる地の艱難辛苦に陥り飢餓に迫りたる新英の先祖が始めて安息日を守りたる島嶼是なり風波の靜穩なる時に十分以内は着岸すべき大陸の一葦帯水を隔て、前よりありと雖ども主の聖日なるを以て十分間と雖ども船を出し糧を取り航海するを好まず寒風颯々たる氷雪の中は安息日を潔く守りしとぞ○一週日の間の淫慾の所行をなし安息日にの慎で宗教上の勤をなさば最上の「パリホ光」人たるも賤劣なる信者と云ふ可し信者の多くの誤りて日曜日を一周間の諸惡諸罪を洗除すべき海綿と思惟する者あり然りと雖ども宗教上は於ての日曜日も自餘の諸日も少しも變ることなし全週七日の元より宗教の爲めは費す可く其の内一日の眞の安息日あり

一致

信者の猶ほ石炭の如し之を集る愈多ければ其火焰の愈猛烈あるを覺ゆる也○一致の勢力愈増加すれば其功用品大なるべし一滴の水の以て小舟を行るに足らずと雖ども十万の滴流相集れば即ち一小川となり數多の小川相合し大河となり大河の水流大海をなし是に至りて怒濤激浪を起し造物主の外之を制するものなきに至る也○信者相互は異説を有すと雖も必ず真正の一致を有するを得べし予輩の一致の腐水の一は合するが如きは非ず暗夜の渾沌たるが如きに非ず北氷洋中の冰雪凝結するが如きものは非ず即ち山腹より迸流する清水の如く天上に掛る虹の七種の彩色を合する如し又渺茫たる洋水の勢力を以て自由に流るゝが如し○英の水師提督チルソントンツラハガールの戦争のとき麾下の兩將互に相争ふを見て命を下して曰く卿等の大敵眼前にあるは非ずや善良なる英人は傲ひ互に手を握り親密の情を表す可しと○ウヒリヤ嘗てロマに於て信徒の一致に付説示する所あり曰く予嘗て之を水夫に聞けり彼英國の軍艦は在るや一夜他の英艦を佛國の軍艦と誤認し頗る劇戦をなしたりしが曉に至りて其旗章を見れば何を圖らん孰も大英國の軍艦にてありたり於是や衆大に驚愕し各其疎忽を悔み進て俱に親睦の意を表したりとぞ信者の世に在るや一派起りて他の宗派を敵視し相共し戦ひ終り末日に至り此世の暗黒の晴て白晝となり遂に天上に相逢ふときは至り始めて同志打せしを知るべき其驚愕如何ぞや故に今世に在る間の決して宗派の争をなすとかく俱に主の榮光を顯すことを勤むべき也

聖書

監督ワットソン曰く聖書の神の愛心の默示及び人間の惡心の顯示なり
學士ハミルトン曰く聖書の默示の如く神と人の二質は由りてなるも

のなり聖徒の聖靈の默示する所に従ひ發言したり神其聖子を世に送り玉ひしとき天使の榮光を有する所の天上人の如くなさず人の像となして降り玉へり其言を送り玉へるも又同じヨルダン河より取りたる葦の筆を以て記し玉へり

意を用ゐずして聖書を學ぶ者よして未だ曾て全く神に従ひし者なし
○意を用ゐて聖書を熟讀する者よの聖書の常に新書とある

聖書を讀む

監督シユエル曰く神の詞の生命の水にして之を汲ひ愈多ければ愈清く流出し又神の榮光の火にして之を吹く愈烈ければ愈能く燃へ又聖靈の劍よして之を磨く愈勤むれば愈透明に輝くなり

ペーコン曰く假令聖書の予輩に一事を教へざるも必ず予輩の盲目なるを教ゆ

フライデレル曰く聖書の研究の神學研究の始也終也

シユライエルマヘル曰く聖書の聖靈の述作也而して聖靈の教會の共通精神也此精神の後世の著書と均しく使徒等の著述によりて基督の証明をなせり然り而して基督の使徒等の後世の者よりも一層深奥なる感化を受けしや明あり

ライマンアボット曰く聖書の目的の教會政治又の道德の法則を示すよあらず乃ち神を示すよあり

未だ其眞意を悟らざる者にの聖書の零字を以て記したる書の如し而して聖靈その教師となりて深意を論し玉へり又意を用ずして之を讀む者のヨルムウカールの地よ於て園中の花を摘む人の如く地下に錫銀其他の寶石あるを知らざる也○予輩熱心聖書を學ば、基督の學校よ於て屢鞭撻を免るべし○聖書の猶ほ彩色したる聖殿の窓牖の如し外より堂内を見る時の一物だよ見る能はず然れども堂内に入て外を見るときハ萬物皆美を呈す舊約書中至善至美の金言ありと雖ども至

聖の所に入り信仰の眼を開き聖殿の窓たる基督の鳳顔より望むも非ざれば之を見出す能はず○テロットソンの凡そ五年間只聖書のみ勉強せしとぞ○英國々會の議員バツクストン氏議會に於て論說二ツに分れたる時其娘を送りたる書中に屢々アサ(人の名)の祈念に付指し示せし所あり曰く今汝我聖書を開きなば自ら其所を檢出するを得べしと

學士シドソン新約書を始めてヒルマ語に譯出せしとき草稿の儘アハに携へ往きしが幾もなく入獄したり其妻巧よ之を枕の中に縫込み之を送り七ヶ月を経て内獄に轉せし時看守の獄則より之を棄たるを以て再び持主の手より歸したり其後學士のウンペンヲに放逐せられ其枕の獄内よりしがムンギンなるもの之を携へ歸り其中に至貴至重の聖書あるを知らざれども先生の遺物ありとして之を珍重したり數月を経て後彼の草稿安全よして再び世より出で終りヒルマの聖書中に編入されたりと云ふ

聖書を讀す

ヘンリーウチールドビーチャルの北米ニューヨーク府プリモス教會の牧師なり人あり曰く予輩聖書教會及び牧師の援助を藉らずして眞神を求め得る也と之に答へて曰く汝果して之を求め得るとせば予の然りと云べし今茲に船渡しする人あり然るにニューヨークまで泳ぎ渡らんと欲する者あらば船頭の敢て之を咎むること亦く汝果して之をなし得べくば速に試むべしと云ふべし蓋彼泳がんと欲して河の中央に至り沈没するを恐れ必ず船頭の扶助を求むべし聖書教會及び牧師の援助を藉らずして天國に達せんと欲する人あらば神の之を拒まずして必ず先づ之をして試みしむべし是彼をして神の扶助を求めしむる捷徑なりと

詩人ゲーテ(獨逸國人)曰く予をして文學道德の進歩上に於て深遠な

る思想を養ひしめたる者の聖書なり予之を信するを以て最も安然を得之に依りて大益を得るあり

合衆國第二の大統領ジョンアダムス一千八百十三年十二月友人某より送りたる書に曰く予公務甚だ多忙にして讀書するの餘暇なし然りと雖ども毎日僅少の時間を集め全力を盡して聖書を研究し終に聖書の地球上無比の良書なることを發見したり予此書の數万卷の書籍よりも有益の事項を記載しあるを信す書中予が淺薄なる理學に符はざる點あるとき之を他日の考窮に備ふるありと其日記に曰く今遠隔の地に一國あり聖書を以て其律法と定め各人々に因て其品行を正さば必ず禁酒を勉め勤勉にして儉約を守り同類の人への公道を以て交り親愛を以て之より事へ全能の神への敬愛の情より其義務を盡すべし此の如く社會に於て貪慾飲酒淫行に因て其健全を害し至貴至重の光陰を賭博淫樂の爲め浪費す者なく竊盜を働さ或の偽言を吐き其隣人を欺く者なく衆人擧て平和の中に平和を以て生活す可し又造物主を冒瀆し禮拜を怠る等の事なく各々義務のある所之に従ひ眞理のある所之を求め深く敬愛の心を養ひ万有の主宰を崇敬するや必然なり

ジョンクインシーアダムス一千八百三十八年六月廿二日ワシントン府よりボルチモールの青年文學會に送りたる書に曰く凡そ六合の中書籍多しと雖ども一般人類の最も注意すべき書の聖書なるべし此の如く聖書を贊稱せば諸君中或の予を目して淺薄なる無益の語を發する者なりと云ふものあらん然りと雖ども是予が多年實驗したる定説なり夫れ聖書の何の世何の處を問はず人の必讀すべき書にして一回若くは二三回よして止むべきに非ず必ず毎日奈何ある事故あるも一章若くは二章を熟讀思考せざるべからず予は此世に屬するの人おれば又此世の人に忠告するあり諸君宜しく聖書を考窮すべし諸君中若

し信仰の法則を探索し道德の法規を研究するは當り倦怠の意を生せば舊約書は就き上古の歴史を探索すべし地球上歴史の數多しと雖ども聖書の如く眞實なる事蹟を記載する者なし實は聖書の如きは無智盲昧なるものも博學多識の人も之を讀て益を得ざるとなし英國の司法卿カーマーシウヘル其子女に忠告して曰く汝毎朝眞實敬虔の意を以て聖書を讀み其事歴教憲を熟知すべし實に聖書の光と智の滿たる書にして汝をして永遠不朽の生命を得せしめ法規を保ち主義を守り一生の間汝を安然光明の地に導くものあり聖書の如く最上の學識智慧に富める有益なる良書なし

ガヨーザワシントン曰く文學の進歩貿易の隆盛風俗の改良輿論の自由上は於て純乎たる天光の人類の改良に大なる勢力を與へ社會の幸福を増進したり政事上の榮光即ち社會の繁盛を來す元氣は於ては宗教道德の欠く可らざる柱礎たり此の如き人類の幸福増進するの柱礎を毀ち人間の義務を滅絶せんと欲するの人の愛國者たらんと欲するも得べからざるなり凡て世の政事家たる者の敬神主義の士君子と一般此二者を敬崇す可し今世に宗教を擯斥し道德を維持せんと欲する者ありと雖ども予輩の所見の之に異なり最も文學の隆興するは從ひ幾分か人智の開發することありと雖ども之を理論に照し之を實地は徴するに社會の道德の宗教主義を除て決して維持す可らざること明なり

詩人ウチートルスコット死に臨み其女塔ロツクハルトは予の爲めに朗讀す可しと云へり何の書を讀むべきやと問へバスコットの大に驚き何の書との心得難し聖書の外に予の聞かんと欲するものありと云へり

コンスタンチノーブルの大監督クリソストム曰く聖書の眞理の靈魂のためは最上の食物なり然り聖書を讀むときこの音に牧場の如くなら

す恰も樂園の如し蓋其内よの百花馥郁たる薰芳を放つのみならず靈魂の用よ供すべき菓實あり故よ予輩聖書を讀むに當り假令其意義平夷なるも決して輕々よ附すべからず是皆聖靈の默示よして眞神深く思慮を回らし告げ示す處なり請ふ試に高價の眞珠を見よ其價の貴重なるの其容量の大なるが故に非ず其質の美なるを以てなり聖書を讀むの理も亦然り管よ多く讀むを以て益あるに非ず之を熟讀玩味するときは眞の妙旨を悟るべし

ガユンミルトン聖書の貴重卓越あるを論ずるの語に曰く上帝の福音を賜ひしの基督イエスよ於て其大能と智慧を顯さんが爲めあり其大智深遠なるの廣大幽邃なる眞理を無智盲昧なる人類よ斯く明白に顯し玉ふことなり假令他人の聖書の意義明瞭ならざるを恐れ之を避んと欲するも予の實に聖書を讀み其意義の深遠明白なるを欽慕する士君子の列に加へられんことを希望す世に詩歌の多きもシオンの

歌に比すべきものなく辨説の美なるもの多きも預言の右に出る者なく政事學の精密あるも聖書の教ゆる處に超過する能はざるなり
 ガユンロック曰く夫れ上帝吾人を愛し無限の恩恵を與へ玉ふ中よ就て最大の恩賜の即ち聖書なる事の少しく其要旨を悟る者の敢て疑を容れざる所也何人が聖書中内外の敵を防ぎ自衛するるとよ付適宜の良法を發見し得ざる者あらん誰か之を讀んで奮發興起せざる者あらん聖書中何の處を問はず之を引照熟讀するよ於て其意義の了解し難き處あらん如此聖書の予輩に缺く可らざる良書たり毎日家事よ汲々疲倦するに至るも主命よ從ひ聖書を考究するを以て却て煩はしく思ふ者あり實に誤謬も亦甚しと云ふべし

ガユンマクロー曰く社會の公道風俗の改良の聖書に依て得らるものなり交際上よ關する法律も聖書に示されざるものなし夫婦父子の義務其他文明の社會よ欠く可らざる所の通義皆な載せて聖書にあり

己の隣を愛し又己の欲する所を人よ施すべしとの命令を各人各戸に於て實行するに至らば地球上最大の幸福を得るに至らん

ダニヘルウエナスト聖書中最も詩篇を愛讀する青年に告げて曰く嗚呼我友よ以賽亞約百哈巴谷の詩の美の即ち美なりと雖も卿もし予の如く六十九の年を迎へば全詩篇より約翰傳十四、十七の兩章若くは其書翰を一層欽慕するに至るべし予屢之を讀み今日に於ての一年に一回必ず聖書を讀むを常とす是即ち辯護士及び宗教家の必讀す可き書なり予之を讀で予の思想に充分なる供給を得たり又之を讀で道德の法規を發見せざる人の爲にの憫然たらざるを得ざるなり

福音

凡て艶美佳麗なる事物の富且貴きものゝ爲のみに造られたりと思ふ勿れ彼の玉樓金閣の皆貴紳富家の占有する處たるも月光銀河滿野の花卉の皆萬恩の主エホバの神が貧富貴賤の別なく凡ての人に賜ふ所の物なり福音の恵も亦然り只學者の爲のみならず彼等元より聖書の高妙なる眞意を味ひ其奧義を悟ることを得べし然り而して聖書の恩慰即ち罪惡の宥恕和睦神聖なる天國の皆貧富貴賤の別なく一般の人に與へ玉へり○福音の外物の變化は由て變遷する植物の如きものにあらず鑠金の炎熱も凜烈なる寒霜も決して之を枯す能はず數千歳を経るも決して古びるとなく土地氣候も其質を變ずる能はず北米國の寒地亞非利加の熱地印度の平地に至るも其生長甚だ麗しく其の葉の萬國の人民を蔭し其の樹蔭にの各種の人民休憩し終る主の榮光を祝するに至るべし○グリーンランドに於てモレヒヤ派遣傳教師多年の間傳道に盡力せしも何の好結果を見る能はざりき蓋教師等の當初神の存在世界の構造靈魂の性質を教説したれども一も益する所なかりしが一日多の土人士音の福音書を携へ來り其意義を解説せんことを望みたり是に於て教師の聖書の意義を略ぼ説聞かせ終る基督の我

輩の罪惡の爲に非常の困難に遭遇し血汗其額より流出したるを讀むに至り聖靈の感應爰に顯れカイアルナクと稱する土人机前より進み來り悚然として震慄しこのそも如何なる事あるや今一度告示し玉へ予の喜んで救を求むべしと斯かる言の未だ嘗て當國人民中より發せし者あるを聞かず爾後充分に福音を學び終り神を信じ大に國人の爲に働き其大功を奏せしとぞ

説教

アレキサン德里ヤのクレメント曰く神を説くと神に付て語ると、天壤月窟の差あり
フレデリキロポルトソン曰く心靈上の眞理の智力を以て命題を考究する代り心靈にて味ぶべきものなるが故に獨斷的よりも寧ろ開發的に教示すべき也

熊澤曰く心定る時の其言重して舒かなり不定時の其言輕して疾

能辨の五要素一發明心即ち良好の思想を發見するや之を以て力ある議論を組立ること二適當なる熟語は慣熟すると三迅速に適宜の思想と熟語を編み出すこと四聽衆の意向を察知すると五威光熱心と演説の風采○モレル曰く精神を生む者の精神あり生命を生む者の生命なり文字の精神を生ます死人の活人を生ます○ペンテュスト福音を説くを得るを悦びつゝ説教せしよボーナル博士進み來り兄の説教を愛する乎將た説教を聽聞する人を愛する乎と云へり○常に希望を以て説教すべし決して時勢に對し教會を對し不平を鳴らす勿れ○説教の目的の能辨にあらず罪人を悔改せしむるあり○人に説教をなすの權理を與ふる者の投票はあらず按手禮は非ず即ち其人の赤心なり若し人説教をなさんと欲し之を爲すの力を有せば全教會之を禁ずと雖も宜しく之をなすべし然りと雖ども人の徳を立つべき説教をなし得ざる人の全世界の牧師之は按手禮を施すと雖ども説教をなすべき

の人物に非ず若し心中に聖き哉主と鳴る鐘を有する人の眞の説教家なり○眞正の説教師の神の造幣寮なり神の溶解したる黄金の如く眞理を其心裡より流出するまで鍛錬を與へ一たび發言するときは金貨の印象の鮮明なるが如く人心に眞理を貫徹せしむるあり然りと雖ども凡庸の説教者の商用の爲めに銀行より花主に舊貨幣を携行く手代と同じもとより此の如き人と雖ども無用のあらざれども其價直甚だ廉かり○予の一百万の人を虚言暴言を吐くよりも寧ろ十人に眞理を語らんと欲するなり若し汝等の内其意を知らば之を試むべし神を己の背後に置き其神慮のある處に隨ひ話をなす可し然るときは汝の云處の全能の神の射玉ふ矢の如く全身に徹せずと云ふとなし○ダニエルウエブストの近世のデモシニスと稱せられし程の雄辨家なりしが人あり來りて急に一場の演説をなし呉れよと依頼せしに斷然之を辞し予の考ふる暇なき演説の敢て之を爲さずと答へけれの君よして尙は然る乎と云ひしに然り予の常は百練千鍛して演説すればこそ多し人よも重んぜらるゝなりと云へり

雜 門

宗 教

ライマンアボット曰く宗教とい人の道德性に及ばず神の勢力なり
マクスムレル曰く宗教とい人の道德性は感化を及ばず顯現に付て無窮を認識すること也

ルナン曰く宗教果して占天術若くは魔術の如く人類の迷妄より出でたらんに業は已に科學の爲に掃蕩し去られしならん若し人當世に於て徳を積みなば未來の報酬疑あるべからずと云ふ兒戯に均しき計算上より割り出せしものならんに人其慾念の熾盛なる時よ於て宗教に熱衷すべき筈也然れ共事實の全く之よ反し彼其心の最も善良なるとき宗教に熱心し未來の報酬に相當すべき徳を積まんと欲す……之

によりて是を觀れば宗教の人の天性よ出るもの也予のよく宗教を信
じ未來の運命を悟りたる人にして始めて其本職を全うすと云ふを躊
躇せざる也

ゲーテ曰く基督教の人類が最後に到達すべき標準也……一度此世よ
顯れて神明的形式を取りたる宗教の決して廢滅よ至るとあかるべし

基督教

マクスムレル曰く他國人が宗教の代に何を有せし乎又今日何を有す
る乎を考へしめよ上代に於て最も開化したりと云ふ希臘、羅馬、印度
波斯の祈禱文禮拜神學等を調査せば吾人の衷心より感恩の念禁する
能はざるものあり實に生命の源泉より基督教の光明と學識の純良を
る大氣を呼吸するを謝せざるべからず

ゼームスマルチノー曰く基督教國よ於て凡て善且大なる事業の基督
教徒の手に成りし事の明白なる事實なり而して其事業よの起業者若

くの當時代に屬する丈の宗教分子を含有するを見る……基督教國を
出で、異教の境に至らば思想と感情の上に一大變化あるを見る

基督教研究論よ出づ

ユレリーザ曰く基督教の學說にあらず空論にあらず生命也否な生命
の哲理にあらず眞生命也斯教の既に千八百年の間世に行れたり人あ
り左の如き記事を遺せり予之を試みしよ何の效果もなかりき予其教
訓を忠實よ實踐したりしよ其結果として遂よ斯教の眞實なることを
疑ふ能はざるに至れり

チャニング曰く基督教よ對する今一の證の從來予が證せしものより
も一層深く内部に屬するものにて説明するよりも感ずる方なり尤も
感情よ基けども決して眞實を缺くよのあらず是他なし此宗教の神よ
り出でたる實証よして斯教を自己の性質と生涯に應用し其精神と希
望の歸依者の心よ湧起し來り漸を以て強固よ成り行くなり如此人よ

の基督教のよく其最も高貴なる能力に適應し之を細言せば人心を高尙にし之を慰藉し且つ眞正の幸福を授け世が奪ふ能はず又此世のものよあらざる即ち永窮の光より來る光線天國の智慧と愛の源泉より流れ出る清泉とも云ふべき平和を與ふるもの也との確信を有するに至る是即ち基督教に對する証據論を讀む能はざる千百の信者の心を維持する所の證據也

ライマンアポット曰く基督教の奴隸其他の害惡を直ち掃蕩せんことを勤めしにあらず然れ共一種の光明を發して暗世を照らし四海兄弟てう基本の上に凡百の制度を安置するの佳境に進みつゝある也

教 育

トマスアルノルド(英國教育の大家)曰く一予が教へんと欲する所の學識よあらず乃ち之を得るの途也二生徒をして自重の風を養はしめんが爲よ紳士の待遇をなす三惡を避けしむ四人の前よ惡例となり且

惡感化を及ぼす者よの退校を命す五人各爲すべきの天職あることを感せしむ

學者と無學者と何の異なる處ありやとの問よ答へてアリストテルの活人の死人に異なるが如しと云へり○ナポレオン一世の頗る宗教々育に注意せし人なりき曾てカムパン女史の學校教科書を獻覽し供へしとき本校の女生の一月二回祈禱會に列すべしとありしを二回を毎日と改めたり○ウイリヤムメン將に米洲に渡航せんとするや從來大に國事の爲よ盡力し財囊底を拂ひしかば其最愛の妻よ向つて我負債を償却する迄の生活の度を低下し一意節儉を守るべし然れ共兒輩に可成廣く教育を得せしめ決して資金を惜む勿れと云へり○眞正の教育の慈母の膝上に始る○マダム、デ、ステールナポレオン帝よ答へて曰く陛下佛國人民をして幸福を得せしめんとの獻慮よ在さば宜く國民の母を教育し玉へと

富

ヒルキヨル曰く何人よても其帳簿を見て富めるや否やを知る能はず人をして富ましむるもの心なり其所有物の多少によりて貧富の別を知るに非ず唯其品性よ由て之を知るべし

司馬温公曰く財を積んで子孫よ遺す子孫必しも守らず書を積んで子孫に遺す子孫必しも讀まず徳を冥々の中よ積んで餘澤を子孫よ遺すに如かず

孔子曰く夫富而能富人者欲貧而不可得也

清貧常樂濁富多憂○不貧爲寶○人爲財死鳥爲食死○凡殖財産貴其能賑施也否則守錢虜耳○貝原益軒其舊友風竹散人の言を誦して曰く凡そ富よ三等あり第宅宏麗に資財殷充ある家の富也四躰康健に耳目聰明なるの身の富也旁々物理よ通じ廣く古今を識るの心の富也と蓋し是前人未發の言也

誠律

○法律と制度の常に動搖するものなり故に時々時計の如く掃除をなし正時に直し置くべし○佛の五戒一物の生命を殘害する勿れ二竊盜する勿れ三邪淫する勿れ四妄語する勿れ五懈怠心を起す如き酒膠並よ藥餌を用ゆる勿れ

佛僧の必慎すべき者

殺生、偷盜、淫行、妄語、飲酒及び非時食、蹈舞、謠歌、醜態を觀す事、華粧薰香及び芳香を用る事、高廣なる臥床を用る事、金銀、生穀、肉類、婦女、奴婢畜類象等の贈遺を受る事、讒謗する事、叱咤惡言を吐く事、無用の談話をなす事、綺語の書稗史小説を讀み聞く事、俗人の書信を媒介する事、賣買する事、欺騙賄賂偽造詐術を用る事、他人を禁囚剝奪恐嚇する事、禁する處の學術技藝を學ぶ事、

ナルユツト、佛教問答

奢侈

フライニー曰く演説家カルボスの銀にて庖厨具を製したりとて痛く嘆息せしも吾人の銀具を以て馬車を裝飾することを發明したりニロ王の妃ポピアの驟馬蹄銀をはめたり○又曰く驢乳の婦人の皮膚を艶麗ならしむる特效ありとてポピアの行啓毎に驢五百頭と驢兒を引かじめ常に驢乳風品に俗せり

トルトリヤン曰く故に主に在る姉妹に常に艱難を黙想し不幸にして之に遭遇するも其苦楚を感せざれ断然奢侈を去り之を失ふも悲まざれ天國の裝飾を慕ひ地上の裝飾の之を放棄せよ……請ふ正義の絹聖潔のリチン温良の紫を身に纏ひ神を汝の最愛者として事へよ一米人其友人に向ひ君の巻煙艸の爲に一日費やす所何程ぞと問へば半マラ也と答ふさらば喫煙を初めて以來何年になるや曰く凡そ二十年間と覺ゆア、友よ君もし喫煙せざりしならば第五街に於て壯麗なる家屋を得べかりしものと云へハ君の禁煙者なる乎請ふ予に貴家を指示せよと○チーガストカイザルの其妻姉妹娘の製せし衣服の外用わし事なし曰く高價の美服の高慢の符號にあらざれば奢侈の心を養成するもの也と

自由

イハンス曰く眞正の自由との勞役を免るゝの謂はあらず乃ち勞役を勤むることなり又た事物を愛憎するの自由はあらず乃ち服従はあり又曰く神の聖靈に導かるゝ人の如く自由あるものなし予輩勞役するにの必ず何人の爲めにか爲す所あり而して予輩の君主の爲に勞役するは非ず乃ち眞神を父とし之に奉事するはあり

ライマンアポット曰く教會内に於て腕力を藉ることなく眞理を以て人の良心を訴ふ

獨逸金言に曰く自由獨行即ち是丈夫の本領なり○眞理に由て自由を

得たる人の真正なる自由の人よして其他の皆奴隷なり○真正の獨立の全く眞神に服従するにあるが故に他の者に束縛箝制せらるゝことなく真正なる獨立の一個人たるを得るあり○信徒の自由の目的の敵手を脱し恐怖の心なく主に奉事するあり○何人よても基督よ従ふまでの奴隷たるを免れず自ら自由を得たりと思ふもののは奴隷の人たり蓋彼れ正義と法律に反し自由の働を以て益と惡を増加するなり○國事犯罪人の自由の木の枝よ結ぶ善果なり

臨終の語

吉田松陰曰く死生の悟が開けぬと云ふの餘り至愚故詳かに云ひん七八の死か惜けれバ三十の死も惜しゝ八九十百よなりても是で足たと云ふことなし艸蟲水虫の如く半年の命のものもあり是を以て短とせず松柏の如く數百年の命のものもあり是を以て長しとせず天地の悠久に比せば松柏も一時蠅あり只伯夷などの如き人の固とより漢唐

宋明を經濟よ至て未だ滅せず若當時太公望の恩よ感じて西山に餓死せずバ百迄死せずも短命と云ふべし云々

吉田元吉の(土佐の名士)曰く花以清香愛人以仁義榮幽囚何可恥唯有日月明有名なる人の臨終の言を一々記載せば誠よ貴重なる歴史を得べし○今耶穌の信者と世俗の人の例を擧んと欲す一千五百七十五年バルトロマイの祭日よ於て佛國信徒の殺戮を命じたるチャールス九世の其動脈曝烈し之が爲めよ其命を損したり彼其終よ臨み揚言して曰く朕人を殺し血を流し今其何處よあるを知らず朕の終の如何ぞや之を爲さんと如何朕自ら永亡よ陷るを知ると○伊太利の不信徒フラシシススパイラの暴死を遂げたり最後よ予の罪の神恩より洪大なり予好で神を拒絶したるを以て彼予の心を頑固よし望を興へざるなり○不信者ホープスの嗚呼恐るべし余將よ沈淪せんとすと云へり○詩人ゲーテ曰く戸を開き光を入るべしと○英國海軍の名將テルソンの

銃瘡を受け今將に瞑せんとするとき揚言して曰く勝利勝利汝何を以て予の腦を煩すや醫官よ予の大罪人よあらざりき神に感謝す予の己の義務を盡したるをと○英國詩人バイロン死に臨み予神よ恩を求むべき乎良久して長大息し弱き心よ來る勿れ予の死に至るまで大丈夫たらんとするなりと云へり○ルーカ曰く吾人の神の救を與へ玉ふ神なれば予の之よ依て死を免るゝなり○カルペン曰くエホバよ爾の吾を苦む然りと雖ども我爾の手より此苦を受たるを以て満足す○シモンノックス曰く基督よありて生きよ肉の怒を恐れざるあり○重力の發明家ニュートン曰く生前よ於て予世人の品評如何を知らず然りと雖ども予の海濱よありて小石を集むる小兒の如し眞の大海の予の前に有り予の未だ之を檢出すると能はざるなり○英國改革家ラチモール、リドリ一偕に火刑に處せられたりラチモール刑場に於てリドリ一に謂て曰く阿兄勇氣を失ふ勿れ宜く大丈夫の働をなす可し今日英國よ於て大蠟燭を照らさば其明光の神恩よ依り長く亡滅するとおかるべし○王陽明將さに死せんとす周積を召す目を開き之を視て曰く吾去る積泣下る何の遺言あるやと問ふ先生微哂して曰く此心光明亦復何言暫くして目を瞑して逝る○ダニエルウェブストル其死に先つ二周日左の語を書記し筆記せしめ自ら筆を取りて訂正淨書署名せり主よ我信す我信なきを助けよ哲學上の論議殊よ此地球を以て宇宙の大よ對比するときの實よ九牛の一毛にも足らざるを見るや予が信仰少しく動搖せり然れ共予の心衷に於ては基督の福音の神明的眞實あるを確信す山上の垂訓の決して人意に成りしよあらず此信仰の予が良心の精髓に貫徹し人類の歴史も亦之を証明す

追 悼

ナパールの女王コンデー(佛國ヒュゲノーの名將)公の死を吊して曰く予が友死に至る迄忠實と勇氣を以て信仰を固守せしコンデー公の

死を追悼す然り而して公の忠勇を學び神は離れんよりの寧ろ死を爲さんとの一決心を有するよあらざれば吾人の涙の公を追悼するの價直あらざる也吾人の事業の公の死と偕に滅するものよあらず彼の痛のしき最後の斯宗教を擁護する忠義の士を落胆せしむべきにあらず當時米國よ於ける大家の守りし金言及び其成功の秘訣と失敗の原因よ數へしもの

ウイールボル、エフ、クラフト著當時の成功的人物抄譯

ゼ、エチ、シーリー（アモルスト大學校長）

金言、事業を探さず事業を厭はず

成功、忍耐して成功の至るを俟つ

失敗、過急

ガユゼフ、クツク

金言、如何なる價を拂ふても明白なる理想を得る事、神と本心よ全

く服従す

成功、全く神に服従す、明晰なる思想、精確該博なる學識

失敗、不正直、卑怯、怠惰

アレキザンデル、エチ、ステペンス（ガユルギヤ州の前知事）

金言、時と潮流の人を待たず須く前髪を攫んで機會を捕へよ

成功、眞實、正直、正義、名譽、本心を重んずる事

失敗、緩漫、不正直、不眞實

ダルウキン、アール、セームス（ブルクリン市の選出議員）

金言、好評の巨萬の富よ勝る、神の國と其義を求めよ、

此二主義を懷いて世よ立ち十八にしてスルーフ街日曜學校を創始し來月を以て三十年となる

成功、眞正の成功の強固なる基督教徒たる品性を養ひ神の榮光の爲よ全能力を竭すよあり……

失敗、人生の大目的を誤解し公義正道の生活に満足せず立身を急いで誘惑に陥る

カミュエル、ポルンス(チマハの商人)

金言、勤勉、節儉、忍耐、萬事を神に任せよ去らば神汝の途を照さん
成功、一度目的を定めなば勝つか死せるか……主を信じて善を爲せば
必らず汝を養ひ玉はん

失敗、動搖、固守力乏しく、識らざる人の爲に保証する事

エト、シ、マツククログ(ヂヤンセン、マツククログ商會)

金言、成功を得るよりも成功を延ばす方便れり不景氣の時も當ての
希臘の教訓—神の目も正直の人が困難を排して戦ふの狀に勝れる高
貴なる現象なし—を思ふ

ヂユルヂ、アール、ウエンドリング

金言、安息日を潔く守る

成功、方さよ爲すべき事務に對し全心全力を惜まらず身軀の健康を害せざる習慣を造り祈禱を勤む

失敗、身分不相當の生活と飲酒

アントニー、ユムストック(害惡排斥社の支配人)

金言、小事に忠ある者の大事にも忠なり、神意、善を行ふに臆する
勿れ蓋もし倦むことなく我儕時に至りて穫取べけれバ也

成功、神の爲に献身、全く神に信任す、道德上の勇氣、倦まざる熱心、蛇の如く智く、鴿の如く馴良かれ

失敗、不潔なる生活と不正直の行爲、情慾と飲酒、身分不相當の生活
チヨン、ワナメーカル(呉服商にして遞信卿となれり)

成功、精密なる應用、正義、細目も注意し、智き廣告

ヂス、イ、ホルデン(革商)

金言、汝自ら直きを知らば直進せよ、品物を確實よせよ

成功、經驗と教育、勇氣と應用、名譽と信用

失敗、カリホルニヤ州の商業家の計畫と應用は缺る所あり辯護士新聞記者等の飲酒の弊を免れず

トマス、ゼ、ヒル(プロビデンスの製造家)

成功、迅速は注文は應ずる事、今日爲し得る事の明日に延ばさず、正直と勤勉、得ざる前に費さず、整然と品物を備ふる事

失敗、組織の缺乏、商務は不注意、人任せにして細目を顧ざる事、怠惰、放逸、借金の保証を怠す事

エー、ダブリウ、テニー(ブルクリン市地方裁判所検事)

成功、正義、眞實、迅速、謹嚴、忍耐、勤勉

ゼー、エチ、ビンセント(神學博士、著者、記者、講師)

金言、神は近侍せよとの予が六歳よして母の膝下を離るゝ時に教へ玉ひし訓言なり殊とよ慈母が日々の行狀によりて此訓言の眞意を示

されにしより影の形に添ふが如く予の生涯に伴隨し予をして多くの害惡より免れしめたり

成功、自己の情感と嗜好を去つて基督の生涯は描出されたる義務の要求は服従する事

失敗、己の慾念を充たさんが爲に卑むべき肉の生涯を送る事

ライマン、アボット(フレモス教會の牧師アウトルックの記者)

金言、汝の手よて爲さんとする事の全力を盡して之を爲せ
成功、如何にせば最も多の善を爲し得べきやを研究し報酬の其來るに任せよ

失敗、怠惰と傲慢の念は驅られ己が爲さんと思ふにあらざれば何事をも爲すの心なき事

リブリーローパス(ブルクリン工事監督)

成功、勤勉、節儉、嚴正

失敗、當初從事せし職業よ安んせず永續せざる事、他人の自己より
も一層容易に一層迅速に富を得つゝあらんと誤測し富を得んと過急
時間と能力を分割し一事に精ならざる事
マヒデ、エム、ストーン(ニウユルク商業新報の記者)

成功、先見によりて發見したる方法に基き十分有益ある生涯を送ら
んとの堅志を抱き一日に三日間の事業をかし之を生涯永續する事

失敗、怠惰と安佚を望むの心
エー、ザ、レイン(シカゴの學事監督)

成功、神と正義よ忠實にして勉學勤勞する事
失敗、怠惰、自負、小事に不正直なる事

ロイガン將軍(合衆國元老院議員)

成功、斷へざる勤勞

失敗、己が熟知する事に熱心せず多岐に流るゝ事

明治廿七年十二月十八日印刷

明治廿七年十二月廿五日發行

定價拾錢
郵稅貳錢
版權所有

大坂市西區江戸堀上通二丁目九十六番屋敷

編纂者 宮 川 經 輝

大坂市西區土佐堀三丁目三十八番屋敷

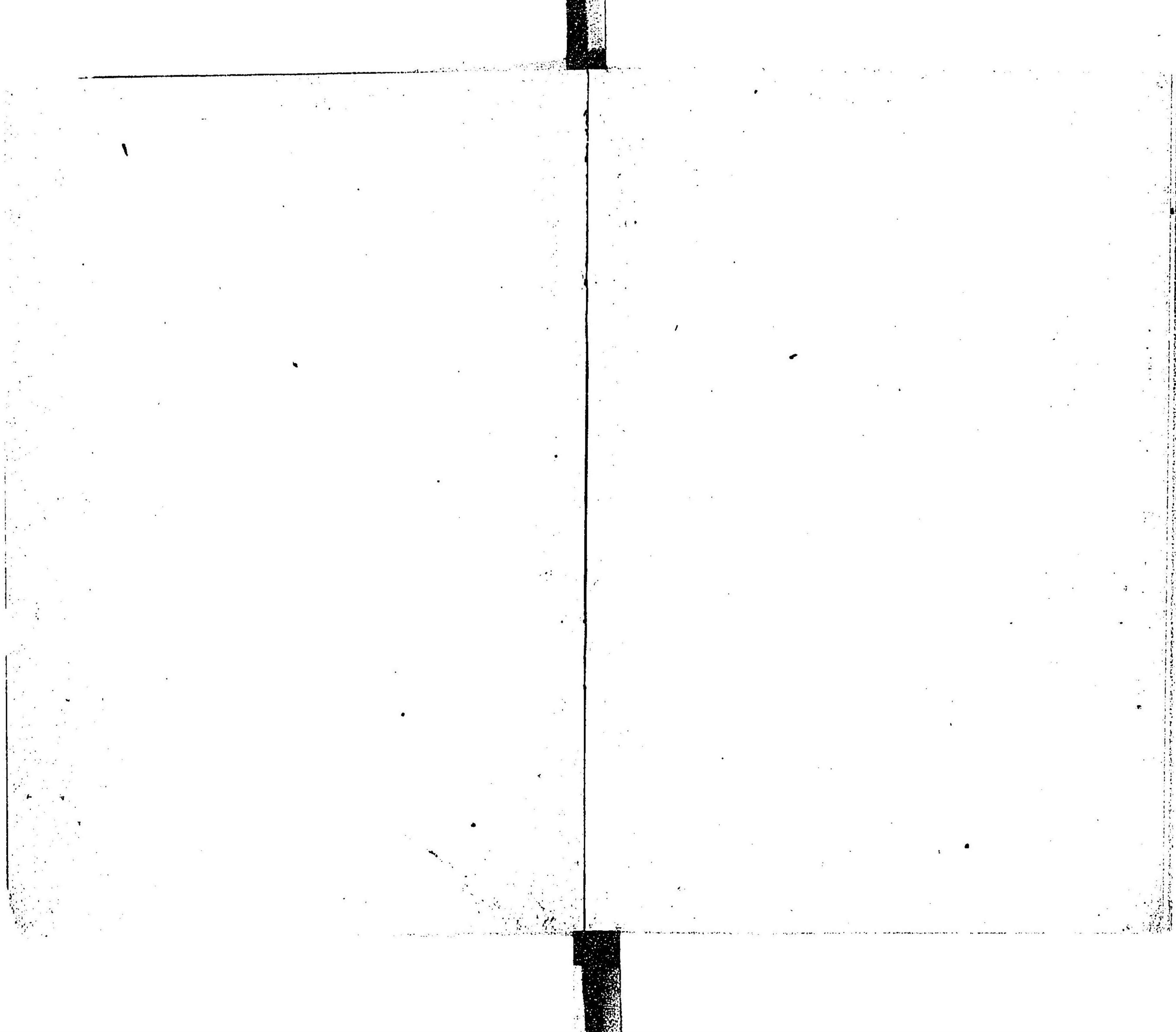
發行兼印刷者 今 村 謙 吉

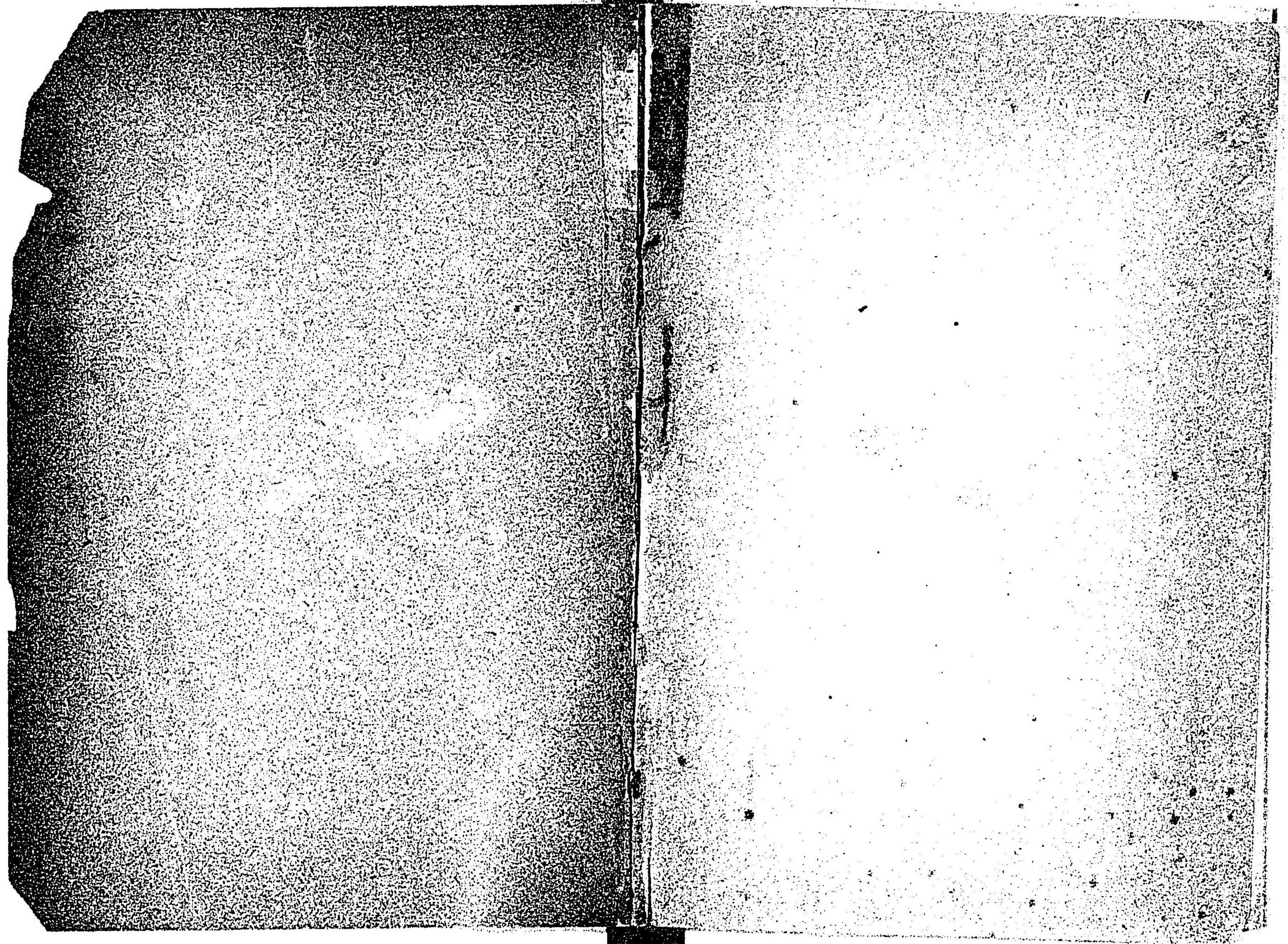
大坂土佐堀三丁目

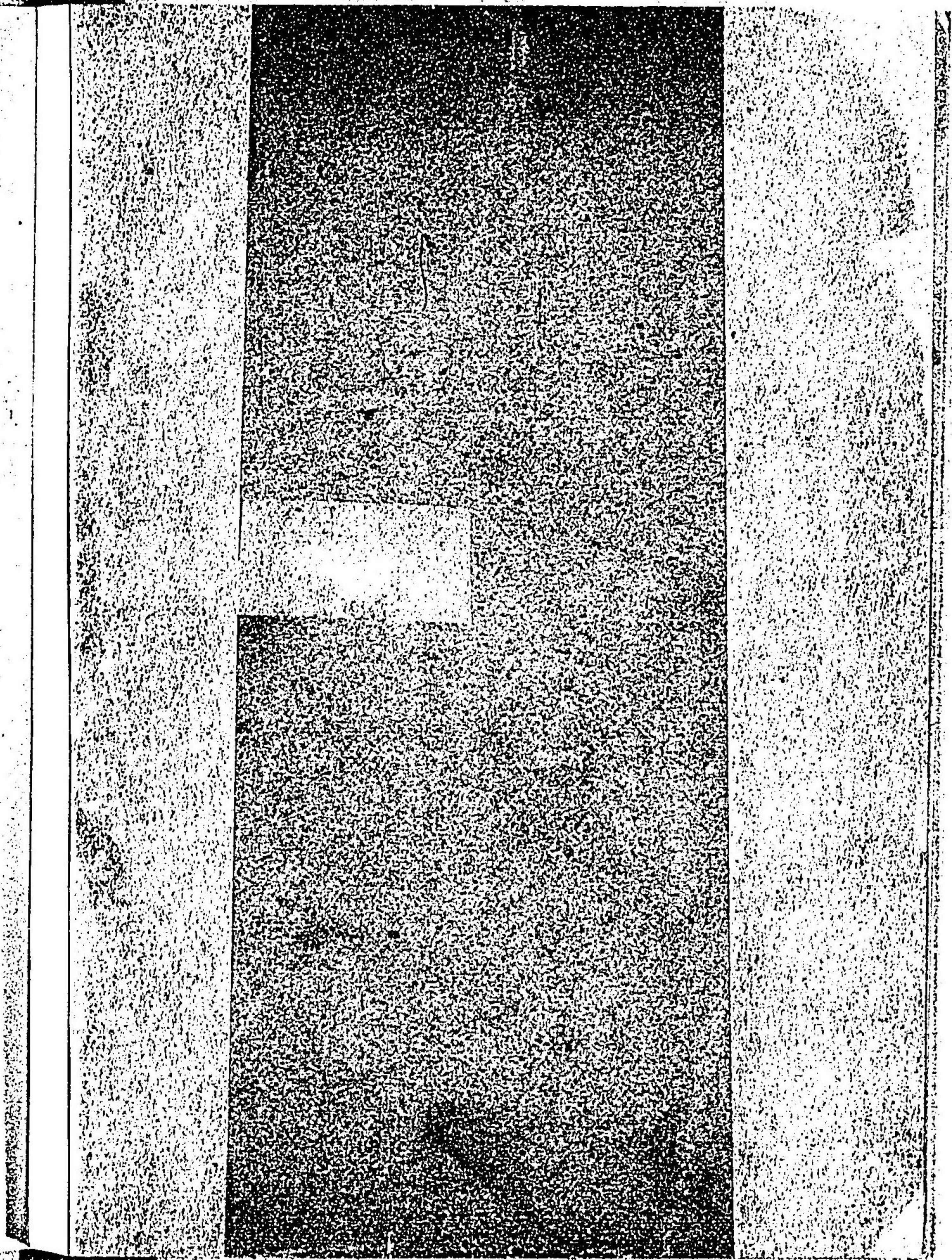
發賣所 福 音 社

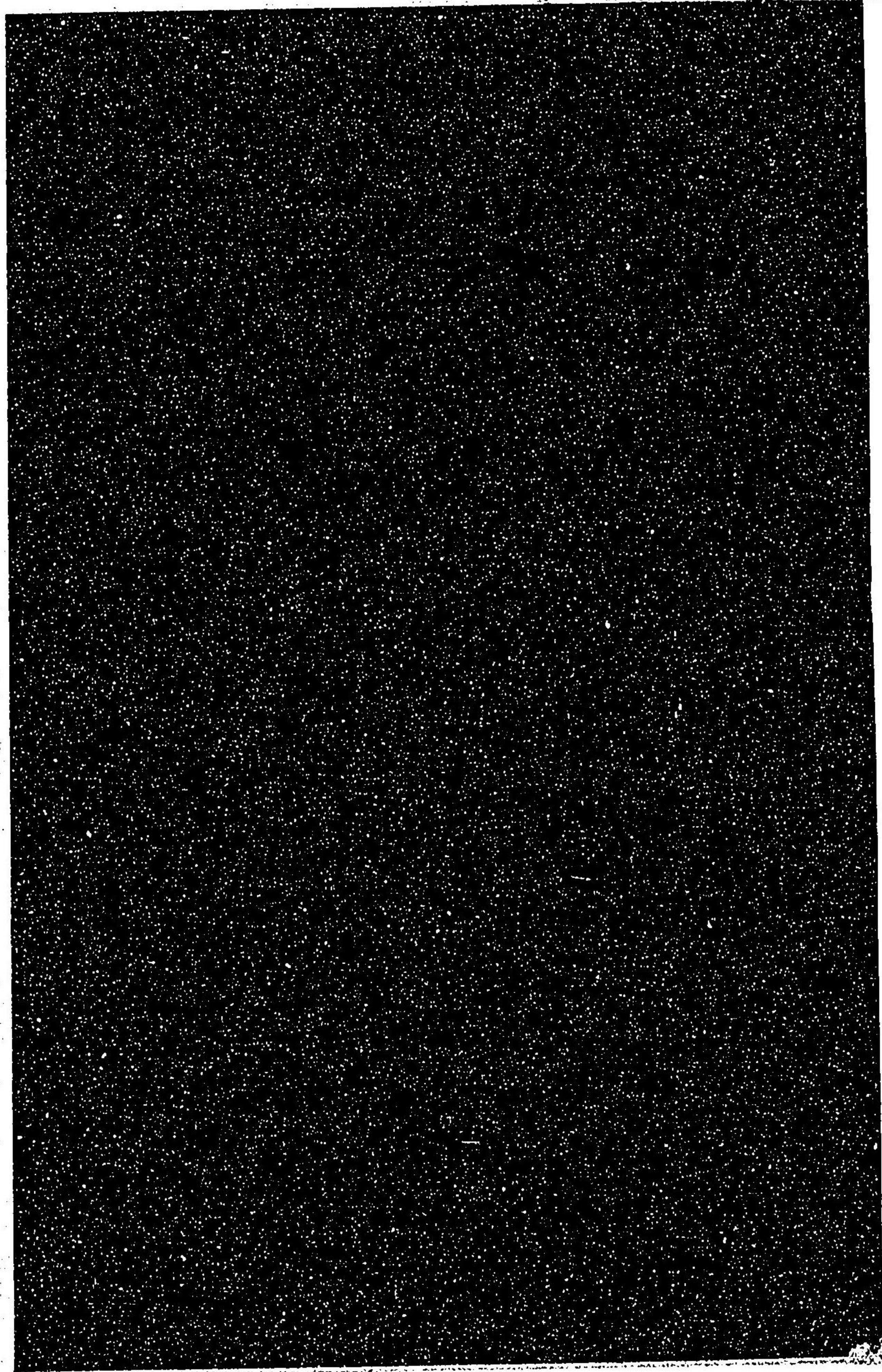
東京々橋出雲町

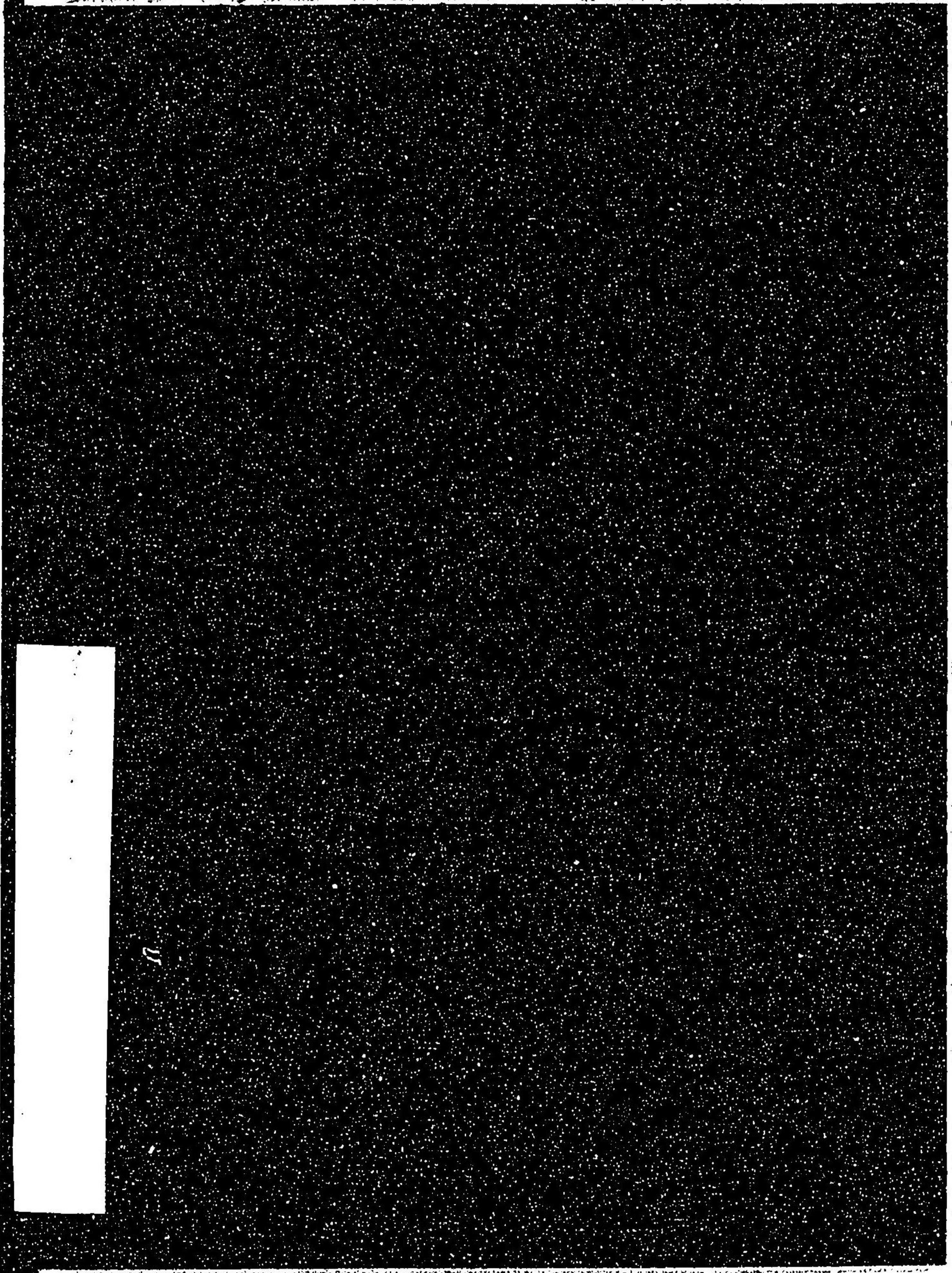
大賣捌所 警 醒 社 書 店











11

特 62

85

増補
訂正 金言集

国立国会図書館

020592-000-2

特62-85

金言集(増補訂正)

宮川 経郷/編

M27

ABI-0407



